

第7回 プラチナ大賞

報告書



# プラチナ大賞とは

## 「プラチナ大賞」の目的

未来のあるべき社会像として描く「プラチナ社会」は、成熟社会における成長の一つのモデルであり、日本が先進国として直面する課題の解決と、新たな可能性の創造によってもたらされる、豊かで快適でプラチナのように威厳を持って光り輝く社会です。

「プラチナ大賞」は、この「プラチナ社会」のモデルを示すことを目的として2013年に第1回が開催され、今回で第7回目を迎えました。

イノベーションによる新産業の創出やアイデアあふれる方策などにより社会や地域の課題を解決し、「プラチナ社会」の目指す社会の姿を体現している、または体現しようとしている全国の自治体や企業などの取り組みを賞という形で称え、これらをプラチナ社会のモデルとして広く社会に発信することを通じて、「プラチナ社会」の実現に向けたビジョンや具体的なアクションの理解・浸透を図るものです。

## 「プラチナ社会」とは

人口減少、急激に高齢化する社会、地球温暖化等、課題先進国である我々日本がおかれている現状において、老朽化していく都市インフラ、活力を失う地方の市街地、荒廃する農地、財政を圧迫する社会保障全般、人材養成の困難とその海外流出、新たな負担となった地球環境への対応など、さまざまな課題が生じています。

これらの課題は物質的な豊かさを達成した先進国ならではのものであり、これらをわが国が「課題先進国」としていち早く乗り越えることは、一方で新たな社会システムの構築、新しいビジネスの創造に繋がる、大いなる可能性に満ちた挑戦であるとも言えます。私たちは「課題解決先進国」として日本が目指すべき社会を「プラチナ社会」と定義し、その必要条件は以下の通りであると考えます。

- ・ **エコロジーで** (人間にとって快適な自然環境の再構築、環境との調和・共存)
- ・ **資源の心配がなく** (エネルギー効率の向上、自然エネルギー活用、物質循環システムの構築)
- ・ **老若男女が全員参加し** (生涯を通じた成長、社会参加の機会創造、健康で安心して加齢できる社会)
- ・ **心もモノも豊かで** (文化・芸術に彩られた暮らし、飽和・停滞を打破する「限界を超えた成長」)
- ・ **雇用がある社会** (イノベーションによる新産業の創出)

「プラチナ社会」の姿は、このような条件を備えたうえで地域ごとの個性的様相を帯びるものであり、その実現のためには各地域独自の自立的かつチャレンジングな取り組みが重要となります。

### 第7回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式

日時 2019年11月5日(火) 13:15～17:35

会場 イイノホール&カンファレンスセンター

主催 プラチナ構想ネットワーク (会長:小宮山 宏)

プラチナ大賞運営委員会 (委員長:増田 寛也)

後援 総務省、経済産業省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、特別区長会

# 第7回 プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 フォトレポート

会場 イイノホール&カンファレンスセンター



## 開会挨拶



プラチナ構想ネットワーク 会長  
小宮山 宏

## 運営委員長・審査委員長挨拶



運営委員長 審査委員長代理  
増田 寛也



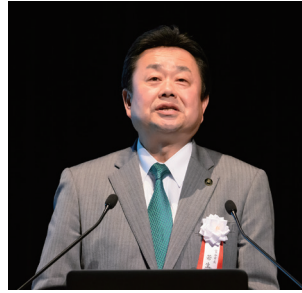
最終審査発表会（発表順）



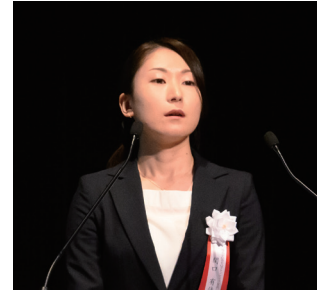
一般社団法人 熱中学園  
更別村(北海道) 高森町(長野県)  
琴浦町(鳥取県) 越知町(高知県)  
小林市(宮崎県)  
一般社団法人熱中学園  
代表理事 堀田 一英 氏



弘前大学 大学院医学研究科  
特任教授 中路重之氏  
青森県 弘前市(青森県)  
弘前大学 COI 研究推進機構  
COI 拠点長 中路 重之 氏



富谷市(宮城県)  
富谷市長  
若生 裕俊 氏



株式会社染めQテクノロジー  
R&D LAB 課長  
関口 有佳里 氏



清水建設株式会社  
日本アイ・ピー・エム株式会社  
清水建設株式会社 技術研究所  
上席研究員 貞清 一浩 氏



一般社団法人リファイン就労  
支援センター  
代表理事  
井田 高志 氏



株式会社イトーキ 鎌倉市(神奈川県)  
特定非営利活動法人タウンサポート鎌倉今泉台  
一般社団法人 高齢社会共創センター  
株式会社イトーキ 代表取締役社長 平井 嘉朗 氏(写真左)  
鎌倉市長 松尾 崇 氏(写真右)



浜松市(静岡県) 京丸園株式会社 株式会社ひなり  
浜松市 農業水産課 北嶋 秀明氏(写真左)  
京丸園株式会社 代表取締役 鈴木 厚志 氏(写真右)



株式会社リクルート 有田市(和歌山県)  
株式会社リクルート 地方創生プロジェクトマネジャー 花形 照美 氏(写真左)  
有田市長 望月 良男 氏(写真右)



株式会社ストライプインター  
ナショナル  
SDGs推進室 室長  
二宮 朋子 氏



美祢市(山口県)  
美祢市長  
西岡 晃 氏



都城市(宮崎県)  
都城市長  
池田 宜永 氏



さいたま市(埼玉県)  
株式会社中央住宅  
株式会社高砂建設  
株式会社アキュラホーム  
さいたま市長 清水 勇人 氏

## 「プラチナ大賞受賞団体 取り組みのその後」ご報告



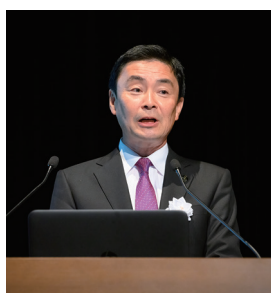
第1回大賞・優秀賞 上勝町(徳島県)  
上勝町長 花本 靖 氏(写真左)  
特定非営利活動法人ゼロ・ウェイストアカデミー 坂野 晶 氏(写真右)



## プラチナ奨励賞 表彰式



取手市(茨城県)  
取手市長 藤井 信吾 氏



戸田市(埼玉県)  
戸田市長 菅原 文仁 氏



## 最終審査会



## 来賓挨拶



総務大臣政務官  
木村 弥生 氏



経済産業大臣政務官  
宮本 周司 氏

表彰式



大賞・総務大臣賞  
弘前大学 大学院医学研究科 特任教授 中路 重之氏  
青森県 弘前市



大賞・経済産業大臣賞  
株式会社リクルート 有田市



講評



審査委員長代理 増田 寛也

閉会挨拶



幹事長 岩沙 弘道



---

## はじめに

「プラチナ大賞」は、イノベーションによる新産業の創出やアイデアあふれる方策などにより社会や地域の課題を解決している自治体や企業などの取り組みを賞という形で称え、それらを「プラチナ社会」のモデルとして紹介することにより、更なる広がりにつなげることを目的に、2013年より毎年開催しております。

これまでに、「大賞・総務大臣賞」は島根県海士町（第1回）、ヤマトホールディングス株式会社（第2回）、石川県珠洲市（第3回）、島根県雲南市（第4回）、新潟県見附市（第5回）、兵庫県養父市（第6回）が受賞し、「大賞・経済産業大臣賞」を福岡県北九州市（第2回）、積水ハウス株式会社（第3回）、コマツ（第4回）、株式会社伊藤園（第5回）、株式会社シェルター（第6回）が受賞しております。

この上記11の取り組みを含む計63の取り組みに対して、「大賞」「優秀賞」「審査委員特別賞」「プラチナ・イノベーション賞」及び「総務大臣賞」「経済産業大臣賞」を授与してまいりました。

今回の「第7回プラチナ大賞」では、会員団体から50件の応募が寄せられ、第一次審査において選出された13の取り組みについて、2019年11月5日開催「第7回プラチナ大賞最終審査発表会・表彰式」において最終プレゼンテーションを行っていただきました。その後実施された厳正なる最終審査の結果、弘前大学・青森県・弘前市の『健康ビッグデータで短命県返上と地域経済活性化の同時実現をめざす産学官民一体型青森健康イノベーション創出プロジェクト』が「大賞・総務大臣賞」を、株式会社リクルート・有田市の『株式会社リクルートと和歌山県有田市との2年間の取り組み（Cheers Agri Project IN ARIDA）』が「大賞・経済産業大臣賞」を受賞し、他11の取り組みが優秀賞を受賞されました。

ご後援をいただいております総務省・経済産業省・全国知事会・全国市長会・全国町村会・特別区長会、その他多くの当会関係団体・ご関係者・当会会員団体の皆様にはご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

また、ご応募いただきました各団体の皆様方には、日頃の熱意とご努力に改めて敬意を表するとともに、厚く御礼申し上げます。

「第7回プラチナ大賞」の開催内容を「最終審査発表会・表彰式」の内容を中心に報告書にまとめました。本書が皆様にとって「プラチナ社会」実現への更なるご理解の深化、あるいは今後の当会活動へのご参画や次回以降の「プラチナ大賞」へのご応募の契機となれば幸甚です。

今後とも、当会の活動に対する、益々のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

プラチナ大賞運営委員会事務局  
(プラチナ構想ネットワーク事務局)

## 目次

はじめに	1
開会挨拶	
プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏	3
運営委員長・審査委員長挨拶	
プラチナ大賞 運営委員長 審査委員長代理 増田 寛也	4
来賓挨拶	
総務大臣政務官 木村 弥生 氏	5
経済産業大臣政務官 宮本 周司 氏	6
第7回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 概要	
実施体制	7
プログラム概要	8
最終審査発表会選出団体	9
受賞団体	10
プラチナシティ認定制度	13
副賞（津軽金山焼の特製トロフィー）について	14
最終審査発表会選出団体のプレゼンテーション	
弘前大学、青森県、弘前市…16 / 株式会社リクルート、有田市…17 /	
一般社団法人熱中学園、更別村、高森町、琴浦町、越知町、小林市…18 / 富谷市…19 /	
株式会社染めQ テクノロジー…20 / 清水建設株式会社、日本アイ・ビー・エム株式会社…21 /	
一般社団法人リファイン就労支援センター…22 / 株式会社イトーキ、鎌倉市、	
特定非営利活動法人タウンサポート鎌倉今泉台、一般社団法人高齢社会共創センター…23 /	
浜松市、京丸園株式会社、株式会社ひなり…24 /	
株式会社ストライプインターナショナル…25 / 美祢市…26 / 都城市…27 /	
さいたま市、株式会社中央住宅、株式会社高砂建設、株式会社アキュラホーム…28	
「プラチナ大賞受賞団体 取り組みのその後」ご報告	
上勝町 [第1回 優秀賞]	
上勝町長 花本 靖 氏	
特定非営利活動法人ゼロ・ウェイストアカデミー 坂野 晶 氏	29
プラチナ奨励賞 受賞団体の取り組み	
取手市長 藤井 信吾 氏	30
戸田市長 菅原 文仁 氏	31
審査委員長 講評	
プラチナ大賞 審査委員長代理 増田 寛也	32
閉会挨拶	
プラチナ構想ネットワーク 幹事長 岩沙 弘道	33
【資料編】	
運営委員会組織と事務局運営体制	35
第7回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 参加者数	35
応募団体の全体概要	36
主なメディアの掲載一覧	37



## 開会挨拶

プラチナ構想ネットワーク  
会長

小宮山 宏



本日は大勢の方にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。プラチナ構想ネットワークは設立10年目になりました。最初はプラチナ社会の理念の形成・確立を中心に3年間ほど取り組み、現在では「地球が持続して、豊かで、自己実現を可能にする社会」という定義が確定しました。

人財育成には最も力を入れてきてまして、自治体の中堅職員のための「プラチナ構想スクール」、小学生を対象とした「ロボットスクール」、中学生を対象とした「プラチナ未来人財育成塾」などを実施しています。人財育成というのは終始一貫、最も重要だと認識し、力を注いでまいりました。

これまでプラチナ大賞をはじめとするプラチ

ナ構想ネットワークの活動を通じて、全国の自治体や企業の取り組みを社会に広く発信してきました。そして、新たに自分たちでも社会実装に乗り出そうということで第3フェーズに入りました。2、3年前からはプラチナ理念の社会実装を視野に入れて、全力を挙げて取り組んでおります。

プラチナ大賞は7回目になりますが、これまでご応募いただいた総数は約400件、最終審査に残り発表いただいた取り組みは約60件になっております。それぞれの自治体特有の背景があります。横展開は簡単ではありませんが、ご応募いただいた取り組みをできるだけ全国に展開していければ、日本は良くなるし、それは世界に輸出できるモデルになるはずです。

そうした意味で、本日の13件の発表には私自身もワクワクしております。私に大賞を決定する審査権限がないことが大変残念ではありますが、増田審査委員長代理をはじめ審査委員の方々に、多数の応募の中から選ばれた素晴らしい取り組みを、是非ご審査いただければと心から期待しております。本日はどうぞ、よろしく願いいたします。

## | 運営委員長・審査委員長挨拶

プラチナ大賞  
運営委員長  
審査委員長代理  
**増田 寛也**



本日は、吉川審査委員長が都合により欠席で  
ございますので、審査委員長の代理も兼ねてご  
挨拶させていただきます。

今、小宮山会長からお話がありましたとお  
り、このプラチナ大賞も第3フェーズに入ったと  
思っています。本日、第1回プラチナ大賞で優  
秀賞を受賞されました徳島県の上勝町からそ  
の後の取り組みの報告がございます。第3フェー  
ズとして必要な社会実装、横展開を進めていく  
というのがプラチナ大賞に今一番必要なことだ  
と思っております。

最終審査発表会・表彰式という場をつくって  
厳正な審査をして、地域の皆様方にプラチナ社  
会の理念、地球の持続可能、そして、さらに豊

かに、そして一人一人が自己実現可能な社会に  
と、まずは日本から世界に向けて大きく、その  
花を開くということを示していければと思っ  
ています。

私はプラチナ大賞を当初から見ておりますけ  
れども、応募の中心は自治体でございまして、  
いわば官が行ってきたものが多かったのです  
が、途中から民間企業の応募も増えてまいり  
ました。本日もこの後、最終審査の発表があり  
ますが、大学や一般の公益法人とともに連携を  
して、色々な試みを行っていくといったような  
ものも随分、出てくるようになりました。これ  
からこうした機会を積み重ねていき、社会実装  
、横展開を進めていくと、さらに色々な自治体  
の応募が出てくるのではないかと期待してあり  
ます。

審査委員の我々もしっかりと見ていきたいと  
思っておりますが、本日会場にお越しの皆様方  
にも是非しっかりと見届けていただいて、地域  
へお持ち帰りいただき、それぞれの地域で実践  
していただければと思っております。本日は、  
どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 来賓挨拶

総務大臣政務官

木村 弥生 氏



はじめに、小宮山会長はじめ関係各位のご尽力により、プラチナ大賞最終審査発表会・表彰式が盛大に開催され、第7回を迎えますことを心よりお祝い申し上げます。

我が国は今、変化の激しい経済社会の中でAIやIoT、ビッグデータを基軸とする第4次産業革命を通じて、「Society 5.0」に向けたパラダイム転換を迎えております。

こうした中、我が国は昨今、人口減少や少子高齢化、全国各地での自然災害の発生、流動化する国際情勢への対応といった様々な課題に直面しております。

プラチナ大賞は、このような「課題先進国」である我が国の課題解決のモデルを発掘・表彰

することで、革新的なアイデアを喚起し、イノベーションによる新産業の創出や老若男女が享受できる心豊かな暮らしの実現に貢献するものであります。まさに、我が国を巡る社会的状況に照らし、時宜を得た取り組みと言えます。

総務省としましても、人生100年時代の中、国民の皆様全てが活躍できる社会を目指して、地域の活性化と5Gをはじめとするデジタルトランスフォーメーションを通じ、持続可能な社会基盤の確保と産業競争力の向上に努めてまいります。

プラチナ大賞は、私ども総務省における取り組みと軌を一にするものであり、今後とも地方公共団体や産業界の皆様と緊密に連携・協力しながら、各地域における好事例を全国的に共有・展開することが極めて重要であると考えております。

最後に、「プラチナ構想ネットワーク」の一層のご発展と、本日お集まりの皆様のご活躍を祈念して、私からの挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございます。

経済産業大臣政務官

## 宮本 周司 氏



本日は第7回目のプラチナ大賞の最終審査発表会・表彰式が盛大に執り行われますことを心よりお喜びを申し上げます。

今、我が国の各地域は少子高齢化、人口減少といった様々な課題に直面をしております。こういった課題に対しまして、地域によって異なる実情を踏まえ、イノベーションによって克服をしていく、そして、その先には光り輝くプラチナ社会を実現する、このことを目指す、この精神は本当に崇高なものであり、まさに、これからの地域力、地域の活性化のよりどころになるものと思っております。

その観点におきましても、このプラチナ大賞が地域に貢献する、その存在というものは大なるものがあると思います。改めまして、小宮山会長、増田運営委員長、審査委員の方々をはじめ関係する皆様方に、経済産業省の立場からも深甚なる敬意と感謝を申し上げたいと思います。

後ほど表彰させていただくわけですが、最終審査まで残られました皆様、これからも地域経済活性化のモデルとなる事業として、これからも発展、成長していただけること、そ

して地域の持続可能性を高める原動力となっただけのこと大いに期待をするところがございます。

経済産業省といたしましても、地域経済活性化に資する、けん引的な立場でご活躍をいただく企業や事業をしっかりと支援させていただいているところがございます。例えば、地域の中心的な担い手でもあります、地域未来けん引企業というのがございますが、地域の住民にとって大切な交通手段、バスのダイヤを最適化するシステムを開発することによって住民の方々の利便性を上げていく。道の駅というものがございますが、この道の駅にバスターミナルを併設し、地域と連携することによって観光客を誘導していく、こういった地域にとって、これから大きな力となるような事業に取り組む企業に対しまして予算面や税制面でしっかりとサポートする、これが経済産業省の立場で行っているところがございます。これからも地域の課題をしっかりと捉え、そして改善、解決をし、地域の力を育てていく、こういった事業や企業を応援することでプラチナ社会の実現にも貢献をしてみたいと思い、これからも経済産業省を挙げて取り組むところがございます。

結びになりますが、本日ご出席の皆様方、ますますのご健勝とご多幸、ご活躍、このプラチナ大賞がこれからも地域力を育むシンボルとして存在し続けていただきますことを心から期待をし、祈念をし、私からのご挨拶とさせていただきます。本日はご盛会、誠にありがとうございます。

## | 第7回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 概要

## 実施体制

- [主催] プラチナ構想ネットワーク（会長：小宮山 宏）  
プラチナ大賞運営委員会（委員長：増田 寛也）
- [後援] 総務省、経済産業省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、特別区長会
- [事務局] プラチナ大賞運営委員会事務局（プラチナ構想ネットワーク事務局）

## 運営委員会

委員長	増田 寛也	東京大学公共政策大学院 客員教授
副委員長	秋山 弘子	東京大学 名誉教授
委員	平石 和昭	プラチナ構想ネットワーク 事務局長

## 審査委員会

委員長	吉川 弘之	元東京大学 総長、東京大学 名誉教授、産業技術総合研究所 最高顧問、日本学術振興会 学術最高顧問
副委員長	秋山 弘子	東京大学 名誉教授
委員	石戸奈々子	NPO 法人 CANVAS 理事長、慶応義塾大学 教授
委員	岸本 一朗	株式会社フジテレビジョン 専務取締役
委員	西條 都夫	株式会社日本経済新聞社 編集委員兼論説委員
委員	田中 里沙	事業構想大学院大学 学長
委員	月尾 嘉男	東京大学 名誉教授
委員	西村 幸夫	神戸芸術工科大学 教授
委員	増田 寛也	東京大学公共政策大学院 客員教授
委員	山田メユミ	株式会社アイスタイル 取締役

## プログラム概要

- 13:15 **開会挨拶**  
プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏
- 13:20 **運営委員長・審査委員長挨拶**  
プラチナ大賞 運営委員長 審査委員長代理 増田 寛也
- 13:30 **最終審査発表会（プレゼンテーション）**  
一般社団法人熱中学園、更別村、高森町、琴浦町、越知町、小林市／弘前大学、青森県、弘前市／富谷市／株式会社染めQテクノロジー／清水建設株式会社、日本アイ・ビー・エム株式会社／一般社団法人リファイン就労支援センター／株式会社イトーキ、鎌倉市、特定非営利活動法人タウンサポート鎌倉今泉台、一般社団法人高齢社会共創センター／浜松市、京丸園株式会社、株式会社ひなり／株式会社リクルート、有田市／株式会社ストライプインターナショナル／美祢市／都城市／さいたま市、株式会社中央住宅、株式会社高砂建設、株式会社アキュラホーム（発表順）
- 15:45 **「プラチナ大賞受賞団体 取り組みのその後」ご報告** [同時間、並行して最終審査会を開催]  
上勝町 [第1回 優秀賞]  
上勝町長 花本 靖 氏  
特定非営利活動法人ゼロ・ウェイストアカデミー 坂野 晶 氏
- 16:05 **プラチナ奨励賞 表彰式**  
取手市長 藤井 信吾 氏  
戸田市長 菅原 文仁 氏
- 16:40 **来賓ご挨拶**  
総務大臣政務官 木村 弥生 氏  
経済産業大臣政務官 宮本 周司 氏
- 16:50 **審査結果発表／表彰式**
- 17:25 **審査講評**  
プラチナ大賞 審査委員長代理 増田 寛也
- 17:30 **閉会挨拶**  
プラチナ構想ネットワーク 幹事長 岩沙 弘道

## 最終審査発表会選出団体（発表順）

団体名	発表者	タイトル
一般社団法人 熱中学園 更別村(北海道) 高森町(長野県) 琴浦町(鳥取県) 越知町(高知県) 小林市(宮崎県)	一般社団法人熱中学園 代表理事 堀田 一芙 氏	郵便の風景印をバージョンアップして地域をつなぐ
弘前大学 大学院医学研究科 特任教授 中路 重之氏 青森県 弘前市(青森県)	弘前大学 COI 研究推進機構 COI 拠点長 中路 重之 氏	健康ビッグデータで短命県返上と地域経済活性化の 同時実現をめざす 産学官民一体型青森健康イノベーション創出 プロジェクト
富谷市(宮城県)	富谷市長 若生 裕俊 氏	富谷市低炭素水素プロジェクト ～とみやからはじまる未来のくらし～
株式会社 染め Q テクノロジー	R&D LAB 課長 関口 有佳里 氏	「全てのモノは劣化する。老朽化＝廃棄 から再生・ 長寿命化へ」あるべき社会を求めてイノベーション が時代を超える。
清水建設株式会社 日本アイ・ピー・エム株式会社	清水建設株式会社 技術研究所 上席研究員 貞清 一浩 氏	インクルーシブな社会を実現する 「音声ナビゲーション・システム」の普及展開活動
一般社団法人リファイン 就労支援センター	代表理事 井田 高志 氏	今までにない、メンタルヘルス不調に苦しめられた ビジネスパーソンの社会復帰支援 ～病気になる前より、豊かに自分らしく生きていくこと～
株式会社イトーキ 鎌倉市(神奈川県) 特定非営利活動法人タウン サポート鎌倉今泉台 一般社 団法人高齢社会共創センター	株式会社イトーキ 代表取締役社長 平井 嘉朗 氏 鎌倉市長 松尾 崇 氏	まちの未来を創る『鎌倉リビングラボ』活動 ～超高齢社会にふさわしいワークスタイルと 住宅・地域環境創り～
浜松市(静岡県) 京丸園株式会社 株式会社ひなり	浜松市 農業水産課 北嶋 秀明 氏 京丸園株式会社 代表取締役 鈴木 厚志 氏	“笑顔”つなぐ はままつの「ユニバーサル農業」 ～どこにも負けない農福企業連携を誘発し続ける 仕組みづくり～
株式会社リクルート 有田市(和歌山県)	株式会社リクルート 地方創生プロジェクト マネージャー 花形 照美 氏 有田市長 望月 良男 氏	株式会社リクルートと和歌山県有田市との 2年間の取り組み (Cheers Agri Project IN ARIDA)
株式会社ストライプ インターナショナル	SDGs 推進室 室長 二宮 朋子 氏	「SDGs 岡山モデル」を世界に発信 ～地方のヒトとモノとコトにプラチナ色の光をあてよう～
美祢市(山口県)	美祢市長 西岡 晃 氏	全国初の PFI 刑務所「美祢社会復帰促進センター」 との「共生のまちづくり」を通じた地方創生
都城市(宮崎県)	都城市長 池田 宜永 氏	スマート自治体時代の地域活性化戦略 ～デジタル×人で創る新たな社会～
さいたま市(埼玉県) 株式会社中央住宅 株式会社高砂建設 株式会社アキュラホーム	さいたま市長 清水 勇人 氏	人と人が絆でつながる 「スマートシティさいたまモデル」 ～公民+学連携のまちづくり～

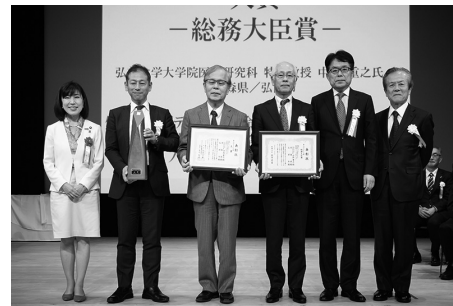
※各団体のプレゼンテーション資料やプレゼンテーション映像は、以下のサイトより閲覧することができます。  
<http://www.platinum-network.jp/pt-taishou2019/ceremony.html>

## 受賞団体

2019年11月5日13時30分から最終審査会が開催され、最終審査発表会に進出した13団体のプレゼンテーションに基づいて、各賞受賞団体が決定しました。審査委員会の総意により、大賞は2つの取り組みに授与することとし、それぞれ表彰を行いました。

### 大賞・総務大臣賞

- 団体名 弘前大学 大学院医学研究科 特任教授  
中路 重之氏  
青森県  
弘前市(青森県)
- 取り組み名 健康ビッグデータで短命県返上と  
地域経済活性化の同時実現をめざす  
産学官民一体型青森健康イノベーション  
創出プロジェクト



### 大賞・経済産業大臣賞

- 団体名 株式会社リクルート  
有田市(和歌山県)
- 取り組み名 株式会社リクルートと和歌山県有田市との  
2年間の取り組み  
(Cheers Agri Project IN ARIDA)



### きらり構想賞

- 団体名 一般社団法人 熱中学園  
更別村(北海道) 高森町(長野県) 琴浦町(鳥取県)  
越知町(高知県) 小林市(宮崎県)
- 取り組み名 郵便の風景印をバージョンアップして地域をつなぐ



### 新しい時代のインフラ賞

- 団体名 富谷市(宮城県)
- 取り組み名 富谷市低炭素水素プロジェクト  
～とみやからはじまる未来のくらし～





技術革新賞

団体名 株式会社染めQテクノロジー  
 取り組み名 「全てのモノは劣化する。  
 老朽化＝廃棄 から再生・長寿命化へ」  
 あるべき社会を求めてイノベーションが時代を超える。



全員参加の社会づくり賞

団体名 清水建設株式会社  
 日本アイ・ビー・エム株式会社  
 取り組み名 インクルーシブな社会を実現する  
 「音声ナビゲーション・システム」の普及展開活動



全員参加の社会づくり賞

団体名 一般社団法人リファイン就労支援センター  
 取り組み名 今までにない、メンタルヘルス不調に苦しまれた  
 ビジネスパーソンの社会復帰支援  
 ～病気になる前より、豊かに自分らしく生きていくこと～



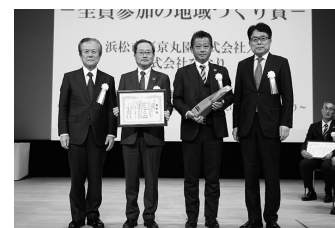
リーディング賞

団体名 株式会社イトーキ 鎌倉市 (神奈川県)  
 特定非営利活動法人タウンサポート鎌倉今泉台  
 一般社団法人高齢社会共創センター  
 取り組み名 まちの未来を創る『鎌倉リビングラボ』活動  
 ～超高齢社会にふさわしいワークスタイルと  
 住宅・地域環境創り～



全員参加の地域づくり賞

団体名 浜松市 (静岡県)  
 京丸園株式会社  
 株式会社ひなり  
 取り組み名 “笑顔”つなぐ はままつの「ユニバーサル農業」  
 ～どこにも負けない農福企業連携を誘発し続ける仕組みづくり～



---

### 地域人財育成賞

団体名 株式会社ストライプインターナショナル  
取り組み名 「SDGs 岡山モデル」を世界に発信  
～地方のヒトとモノとコトにプラチナ色の光をあてよう～



---

### 地域パートナーシップ賞

団体名 美祢市 (山口県)  
取り組み名 全国初の PFI 刑務所「美祢社会復帰促進センター」  
との「共生のまちづくり」を通じた地方創生



---

### コミュニティアピール賞

団体名 都城市 (宮崎県)  
取り組み名 スマート自治体時代の地域活性化戦略  
～デジタル × 人で創る新たな社会～



---

### 新しい時代のまちづくり賞

団体名 さいたま市 (埼玉県) 株式会社中央住宅  
株式会社高砂建設 株式会社アキュラホーム  
取り組み名 人と人が絆でつながる  
「スマートシティさいたまモデル」  
～公民+学連携のまちづくり～



## プラチナシティ認定制度

イノベーションによる新産業の創出やアイデアあふれる方策などにより、地域の課題をすでに解決し「プラチナ社会」に向かいつつある、あるいは「プラチナ社会」実現に向けた明確なビジョンや具体的なアクションによる素晴らしい取り組みを始めている自治体が「プラチナシティ」です。

### プラチナシティ認定自治体

「プラチナ大賞」において各賞（プラチナ大賞、優秀賞、審査委員特別賞、プラチナ・イノベーション賞、その他今後新設される賞）を受賞した自治体です。



プラチナシティ認定バッジ



## 副賞（津軽金山焼の特製トロフィー）について

各賞受賞団体には、表彰状のほか副賞として津軽金山焼の特製のトロフィーを贈呈しました。



大賞



優秀賞

津軽金山焼は、プラチナ構想ネットワークの特別会員である松宮亮二氏が1985年に青森県五所川原市に立ち上げた窯で、高温で焼きあげる「焼き締め」の手法による、深みのある独特の風合いで知られています。

松宮氏は地域に根差した陶芸産業として金山焼を一から育ててきたと同時に、国内そして海外からも多くの陶芸家の研修生を招き、世代や地域を超えた陶工の育成と、人材・カルチャーの交流を通じた文化芸術面での地域貢献を行っているほか、最近ではやきものを通じた被災地の復興支援活動にも積極的に取り組んでいます。こうした津軽金山焼の取り組みがプラチナ社会の目指す理念に相通することから、特別に副賞を制作いただきました。

---

## 最終審査発表会選出団体の プレゼンテーション



※各団体のプレゼンテーション資料やプレゼンテーション映像は、以下のサイトより  
閲覧することができます。

<http://www.platinum-network.jp/pt-taishou2019/ceremony.html>

健康ビッグデータで短命県返上と地域経済活性化の同時実現をめざす  
産学官民一体型青森健康イノベーション創出プロジェクト

弘前大学 大学院医学研究科 特任教授 中路 重之氏  
青森県 弘前市(青森県)

発表者：弘前大学 COI 研究推進機構 COI 拠点長 中路 重之 氏



取り組み概要

弘前大学では、日本一の短命県・青森県という社会的課題の解決を目標に、2005年から15年間にわたって住民健診を基軸とした岩木健康増進プロジェクトを展開し、世界に類例のない超多項目(2,000)健康ビッグデータが蓄積され、大きな注目を集めている。文部科学省革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)の採択を受け(2013)、健常人の健康ビッグデータの解析を活用して、革新的な疾患の予兆法・予防法の開発、およびこの成果を活かした社会実装に向けての取組を企業と共に多角的に展開しているのが特徴である。本プロジェクトでは一般市民も含めた産学官民全てのステークホルダーがアンダーワンループのもとに強固に連携して多様な活動を全県的に展開しており、健康研究および健康増進活動のオープンイノベーション・プラットフォームを構築している。(大手有力企業・国研・大学等計61機関、市民健康リーダー3千名以上)。超多項目健康ビッグデータの解析には、本学のほぼ全ての医学系講座・学部の他、東大や京大等のAIや生物統計の専門家、参画企業も加わり多様な分野の専門家等が集結し、互いの強みを活かした戦略的アライアンスでの解析が進められ、強力かつオープンな一大健康研究プラットフォームが構築されている。近年では、糖尿病はじめ各種疾患・病態の発症を高精度で予測(AUC0.8以上)できる画期的な疾患発症予測モデルが創出されるなど、着実に研究成果が生み出されつつある。このデータをハブに、全国各地のコホート研究をはじめ様々な健康・医療データと連携・統合することで新たな研究成果を創出する先駆的取組にも本学が主体的に挑戦し、既に沖縄(名護)、福岡(久山)、京都(京丹後)を含む全国5大学でのコホート研究等のデータ・研究連携が本格化している。

参画企業同士がアンダーワンループのもとで連携・融合した新事業や商品化の開発事例も多数創出され、大手企業と地元企業との連携にもつながり、地域経済活性化や地方創生にも大きく貢献している。その目玉の一つとして、行動変容とQOL向上を目的とした新たな健診モデル(啓発型健診)を開発・実証展開している。今後この成果をベトナムはじめ開発途上国でも展開し、SDGs(世界の健康づくり)への貢献も目指している。また、14大手企業との共同研究講座(年間3億円程度民間資金)が設立されるなど、国の研究資金のみに依存しないプロジェクトの持続化・自立化への体制づくりも着実に進展している。

これらの戦略的取組展開により最新の平均寿命ランキング(2017)では、男性の平均寿命の伸び幅が全国3位となる等、着実な成果が上がっている。本プロジェクト実現により、地域への波及効果として、経済効果約242億円、雇用創出約1,812人、医療費抑制約527億円(いずれも推計)を見込んでいる。

参考図表



## 大賞・経済産業大臣賞

株式会社リクルートと和歌山県有田市との  
2年間の取り組み  
(Cheers Agri Project IN ARIDA)

株式会社リクルート 有田市(和歌山県)

発表者：株式会社リクルート 地方創生プロジェクトマネジャー 花形 照美 氏  
有田市長 望月 良男 氏

## 取り組み概要

- ・リクルートと和歌山県有田市は、17年3月に地域振興を目的とした包括連携協定を締結し、「Cheers Agri Project IN ARIDA」プロジェクトを立ち上げ、一次産業分野における課題解決支援モデルの実証実験を行ってまいりました。
- ・2年間での成果は大きく4つあります。
  1. 地域人材発掘の場づくり (①全量調査の実施 ②農家意見交換会の開催)
  2. 農産品のブランド確立 (①原産地呼称管理制度の認知度向上 ②日本橋三越本店での有田みかん販売 ③就農体験の実施)
  3. 生産者の販売力の強化 (①販路拡大講座の実施 ②ふるさと納税の拡大)
  4. 生産性向上策の検証 (①ドローン実証実験)
- ・上記の取組による成果を上げつつも、「土地が荒れると周りの農家に迷惑がかかるので、辞められない」、「廃農しそうな農家は分かるものの、こちらから聞くのは失礼なので、聞けない」といった地元農家の声や、新規就農を希望する方々からは「収入や初期費用の不安、農地確保が難しいなどの理由で、やりたいけど、できない」などの声があがり、有田市の第一産業に関わるそれぞれのリアルな課題が明らかになりました。
- ・リクルートは有田市と連携し、課題解決に寄与すべく、包括的就農支援スキーム「AGRI-LINK IN ARIDA」を構築しました。「AGRI-LINK IN ARIDA」は価値ある土地と農家の誇りを未来に残す、新規就農者、農地提供者、受け入れ農家それぞれがメリットを享受できる、三方よしの就農スキームです。
- ・具体的な運用方法として、新規就農者、農地提供者、受け入れ農家をつなぐ「トライアングルマッチング」を行います。2019年4月以降就農希望者の方との面談、就農体験の受け入れを積極的に開始しています。  
(新規就農支援プログラムPRサイト：<https://www.arida-agri.com/>)

## 参考図表

## トライアングルマッチングの仕組み

## ① 事業継承マッチング

新規就農者は独立後、農地提供者と農地賃借契約を結ぶことで、自分で新たに農地を探すことなく、農地を継承できる。また、農地提供者は、所有する農地を残すことができる。

## ② 就労、技術マッチング

新規就農者と受け入れ農家が業務委託契約を結ぶことで、新規就農者は、受け入れ農家から技術習得や農機具の貸与を受け、技術習得をしながら、業務委託料として収入を得ることができる。

## ③ 農地マッチング

農地提供者と受け入れ農家が管理委託契約を結ぶことで、農地提供者は、地元の信頼ある受け入れ農家に大切な農地を管理してもらうことができる。受け入れ農家は、農地拡大のための農地を改めて探す必要がなくなる。

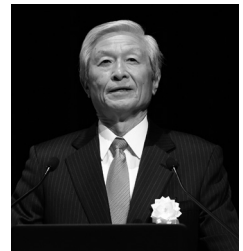


## 郵便の風景印をバージョンアップして地域をつなぐ

一般社団法人 熱中学園

更別村(北海道) 高森町(長野県) 琴浦町(鳥取県) 越知町(高知県) 小林市(宮崎県)

発表者：一般社団法人熱中学園 代表理事 堀田 一芙 氏



### 取り組み概要

#### 1. ビジョン(創造性・革新性)

この革新的(QRコード)風景印は新しい地方創生活動に繋がる、大いなる可能性に満ちた挑戦でありながら、エコロジーで、資源の心配がなく、新たな経費もかからず、老若男女が参加でき、心もモノも豊かな自己実現を目指すことができ、地方の関係人口増加に貢献できる、そのようなプラチナ社会創出を目指す取り組みです。活動の拠点である「熱中小学校」(大人の社会塾)は、2019年中に国内13校、海外1校となり、1,000人以上の老若男女が、250人以上のボランティア先生の授業を受け、地方創生の担い手の育成活動をしています。

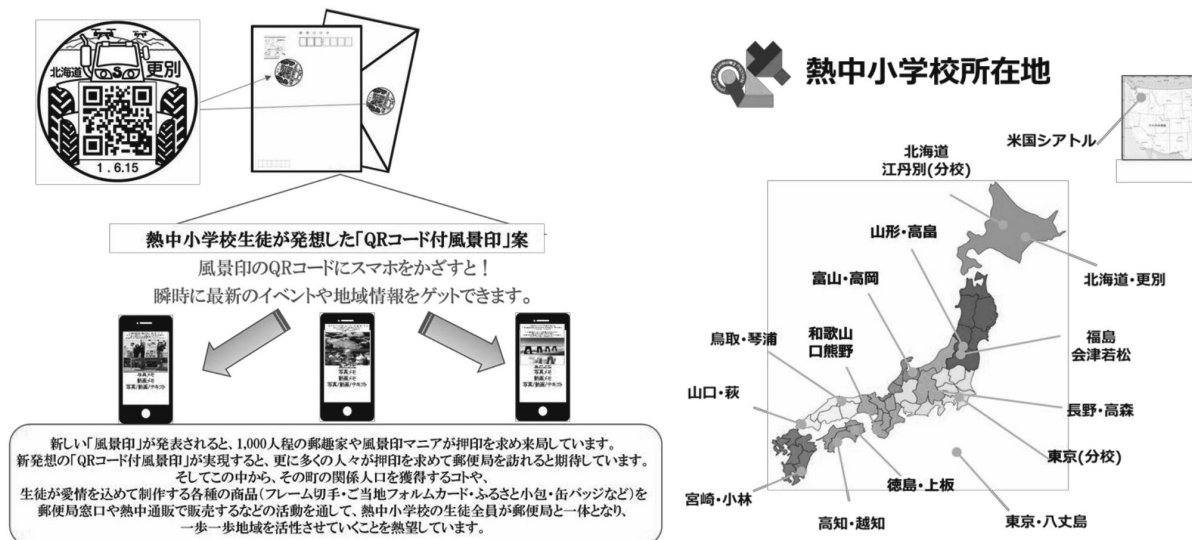
私たちは全国1万余の郵便局に置かれている「風景印(風景入り通信日付印)」に着目し、地元を愛している生徒のデザインによる、風景印の制作を開始しました。その過程で、QRコードを付加するという革新的発想が提案され、静的なスタンプを多くの人々を呼び込む動的なスタンプに生まれ変わらせるための制作活動を始めました。郵便物を受け取った人が、スマホを風景印にかざすだけでその土地の観光イベントなど、魅力的な最新コンテンツに繋がり、関係人口の増加・特産品の販売促進などにも貢献できる、従来の広告媒体の様な紙やエネルギーを必要としないエコシステムへの拡張性をもっています。

#### 2. 解決課題(実効性・持続可能性・展開可能性)

まず第1ステップとして、QRコードの読み取り精度のテストのために、通常の「記念スタンプ」として、郵便局や道の駅などに置く計画としました。大きさや押印条件などの基準化を図りつつ、併せて、必ず最新のネット情報に接続できるよう、ドメインの管理は自治体、利用は熱中小学校と郵便局が共同で担当し、更に自動移動(転送/リダイレクト)機能の活用などで技術的解決を図ります。

正式な風景印として日本郵便様に承認されれば、熱中小学校と郵便局・地域全体との協働による革新的な「QRコード付風景印」による具体的な地方創生活動として、大きな面展開へと発展出来ると考えます。

### 参考図表





## 新しい時代のインフラ賞

富谷市低炭素水素プロジェクト  
～とみやからはじまる未来の暮らし～

富谷市 (宮城県)

発表者：富谷市長 若生 裕俊 氏

## 取り組み概要

## □プロジェクトのコンセプト

富谷市がまちづくりの将来像として掲げる「住みたくなるまち日本一」の実現を目指して、エネルギーの分野においては、地球温暖化対策に貢献するとともに、快適な住環境の構築、地域経済の活性化、新たな雇用の創出、光熱費の低廉化に資するよう、地域で必要なエネルギーを地域で生み出し、地域で活用する「エネルギー地産地消」の取り組みを低炭素水素の活用で目指しています。

## □プロジェクトの概要

- ・環境省事業「地域連携・低炭素水素技術実証事業」の採択を受け、(株)日立製作所、丸紅(株)、みやぎ生活協同組合と本市の4者共同で、低炭素水素の利活用に向けたサプライチェーン構築に向けた取り組みを実施しています。
- ・富谷市低炭素水素プロジェクトとして、公共施設(日吉台小学校児童クラブ棟)に純水素燃料電池を設置し、低炭素社会推進に向けた啓発事業を地域の高校生と連携して進めています。

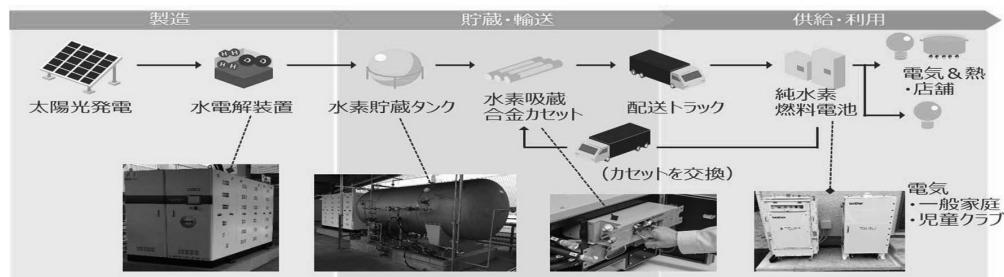
## □プロジェクトの目標

水素利活用の拡大は、地球温暖化対策として大きな役割を果たすことが期待されているが、製造や輸送時にCO2を排出する場合があります、サプライチェーンを通じた低炭素化が必要です。本市での水素サプライチェーン実証事業は、民生用として家庭向けに低炭素水素を配達し、エネルギーとして利用できるシステムの構築を目指しており、安全性の担保なども含めた新しい世界に類がないプロセスによる水素利活用モデルを検証しています。

また、地元の高校生と連携した水素プロジェクトを推進していくことで、未来の担い手である若い世代に地域課題として、研究してもらうことが環境啓発になっており、今後の持続可能なエネルギーの仕組みを生み出していくことを期待しています。

## 参考図表

## 【低炭素水素利活用サプライチェーンの構築図】



## 【富谷市低炭素水素プロジェクト～環境問題を解決できる人材育成と新たな産業技術の創出を目指す～】

- 人材育成
- 技術融合による可能性拡大
- 関連産業育成と新産業創出
- 継続性のある教育プログラム



「全てのモノは劣化する。老朽化=廃棄 から再生・長寿命化へ」  
あるべき社会を求めてイノベーションが時代を超える。



## 株式会社染めQテクノロジー

発表者：R&D LAB 課長 関口 有佳里 氏

### 取り組み概要

我が国は戦後の混乱期、高度経済成長の時代、バブル経済とその崩壊を経て成熟期を迎え、人類史上、類を見ない高齢化社会を迎えようとしている。社会資本に目を移せば、人の高齢化同様、重要なインフラの老朽化が進んでいる。更なる社会の持続的な発展を考える上で欠かせない要素を考えれば、かつてのスクラップ&ビルドやエネルギーの大量消費を前提とした成長戦略は存在し得ない。

既存の施設、設備を廃棄する代わりにそれらを延命させ、長寿命化を図らねばならない。同時にエネルギーの高効率化及びエネルギーロスを最小限に抑えることも重要課題となる。この観点から環境に対する負荷の少ない手法によるアプローチが必須となる。これは言うまでもなく、世界的な課題であるが、特に天然資源の多くを輸入に頼る我が国でこそ最も着目されるべき課題であると考えます。

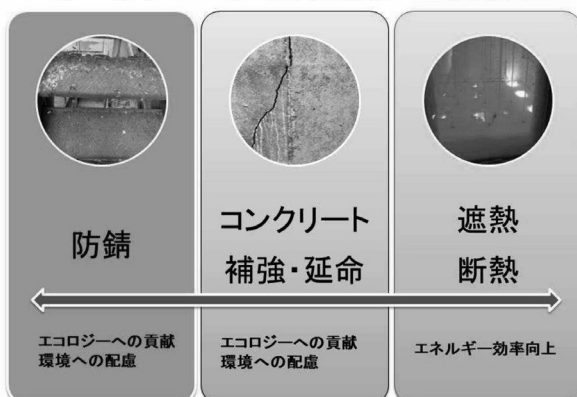
株式会社染めQテクノロジーは、新素材の開発・研究集団をその核として20年余り前から当社の存在の目的・意義を「顧客の抱える問題を解決する会社」、延いては「困り事」の解決による社会貢献を社是とし現在に至っている。顧客及び社会の困り事の大半は、竣工後、半永久的に持つと思われた鉄やコンクリートのメンテナンスの問題である。

鉄部に発生する種々の錆の問題、コンクリートの経年劣化による脆弱さは、社会インフラの老朽化と数多くの事故を招くに至っている。またエネルギーに関しても既存の施設の夥しいエネルギー消費と大量の二酸化炭素放出への対策が喫緊の課題となっている。こういった状況を踏まえ、錆やコンクリートの劣化防止及びエネルギーの効率的な利用を促すための素材・工法を開発するに至った。

これらは、具体的な製品として実際に開発を進め、既に市場に投入しており、電力・鉄鋼・化学を含む重工業の製造設備、建屋の防錆、防アスベスト及び延命化を達成するに留まらず、高断熱塗料の投入によるエネルギー効率の改善、同時にエネルギー消費を抑える事による二酸化炭素排出量の低減化を既に達成している。

### 参考図表

染めQテクノロジーの社会的課題への取り組み



全員参加の社会づくり賞

インクルーシブな社会を実現する  
「音声ナビゲーション・システム」の普及展開活動

清水建設株式会社  
日本アイ・ビー・エム株式会社

発表者：清水建設株式会社 技術研究所 上席研究員 貞清 一浩 氏

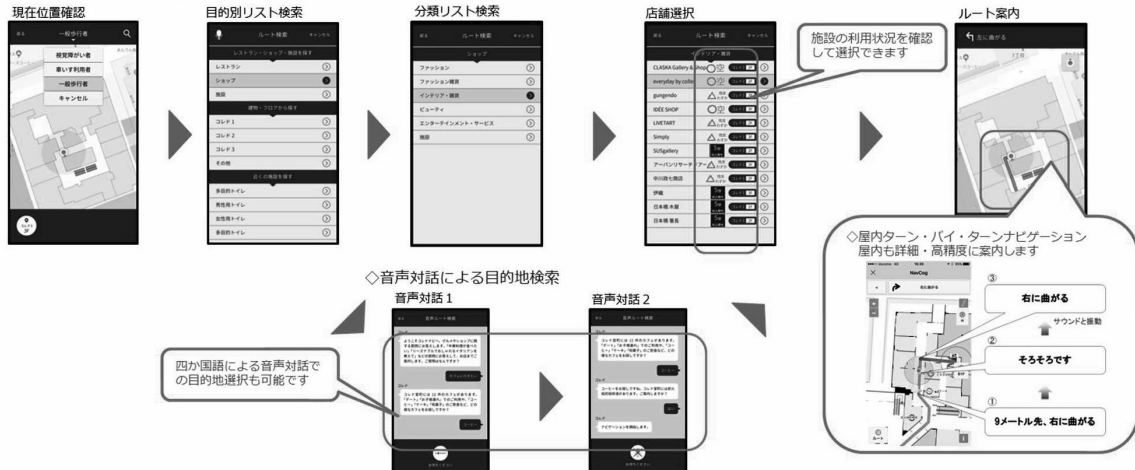


取り組み概要

- ・ 社会における多様な主体に「自由な移動」を保障し、人々の社会参加を促進するために、さまざまな都市・建築空間に ICT 活用のインフラを構築、新たなサービスを普及・展開する取り組みです。
- 「生涯を通じた成長、社会参加の機会創造、健康で安心して加齢できる社会」の実現
  - ・ 本活動は、視覚障がいをはじめ、さまざまな障がいを持つ人々はもとより、その場所に不案内な旅行者、言語的障がいを感じる外国人等（以下、障がい者等）が、スマートフォン等のパーソナルなデバイスを利用して、適時的な経路探索・移動の案内を享受し、目的地まで到達する自律的移動の困難さを解決できるサービスの提供・普及を目指します。
- イノベーションによる新産業の創出
  - ・ 障がい者等が積極的に「まち」に出かける機会が増えることで、また音声ナビゲーション・システムに付随する、障がい者等の位置情報を活用することで、新しいビジネスが創出されることを期待します。障がい者等を対象としたさまざまなサービスの促進・創出だけでなく、障がい者等に向けたさまざまなアプリ開発が展開され、よりインクルーシブな社会が実現されることを期待します。
- 世界最高水準の屋内測位技術を有する音声ナビゲーション・システムの開発
  - ・ 「音声ナビゲーション・システム」は、精度の高い位置情報取得技術と詳細な空間情報データベース（地図情報・ルート情報・モノ情報等）により、スマートフォンを利用し、画面情報だけでなく、音声による情報伝達が可能で、視覚障がい者でも利用できる（目的地まで誘導）、ターン・バイ・ターン（その場で適時的な情報提供をする）のナビゲーション・システムです。
- 公共空間での社会実証実験の実施
  - ・ 本取り組みにおいては、地域に関連する多くのステークホルダーの協力のもと、複数の公共空間での実証プロジェクトに取り組み、障がい者からも高い評価を得ています。

参考図表

◇目的選択、施設満空情報確認による目的地検索

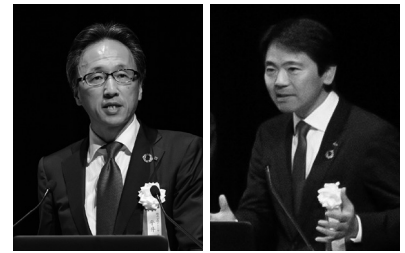




リーディング賞

まちの未来を創る『鎌倉リビングラボ』活動  
～超高齢社会にふさわしいワークスタイルと住宅・地域環境創り～

株式会社イトーキ 鎌倉市 (神奈川県)  
特定非営利活動法人タウンサポート鎌倉今泉台 一般社団法人高齢社会共創センター  
発表者：株式会社イトーキ 代表取締役社長 平井 嘉朗 氏  
鎌倉市長 松尾 崇 氏



取り組み概要

超高齢社会を迎えた日本において、人口減少と郊外住宅地の持続可能性の1つとして、まちの魅力を高めイキイキと働ける環境づくりを産官民学連携のオープンイノベーションで共創し、日本版リビングラボのモデルの構築を目指した。鎌倉今泉台を中心に持続的なプラチナシティ形成を実現する活動を 2017 年から『鎌倉リビングラボ』として取り組んだ。〈図1〉

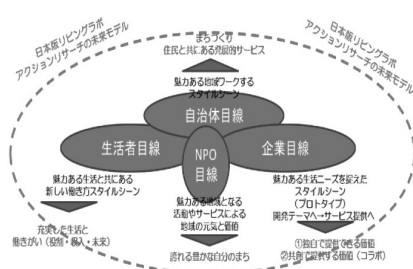
この鎌倉リビングラボは、産(イトーキ)、官(鎌倉市)、民(鎌倉市住民・NPO)、学(東京大学・高齢社会共創センター)が下記の役割を果たし、活動する仕組みとなっている。〈図2〉

- 1) 株式会社イトーキ・・・開発の各ステップにおいて共創オープンイノベーション活動により、生活者のニーズを引き出し生活者(地域住民)の要望に沿った新商品を発売した。
- 2) 鎌倉市・・・住民に活躍の場を提供し、魅力あるまちづくりと仕組みやサービスの可能性を構築した。
- 3) 鎌倉市今泉台地域の住民と NPO・・・住民は自らが開発者となって生活者の目線で商品開発に取り組み、NPO は活動趣旨に合ったマッチングにより、地域のハブとしての役割を担った。
- 4) 東京大学・高齢社会共創センター・・・バランスよくコーディネートしモデルをまとめる役割を担った。

「生活者(地域住民)はテレワークを望んでいるのか?」というニーズを把握するために、次の7つのステップからなる共創モデルを検討・実行した(1.ニーズ調査→2.実生活での利用イメージ(理想)の構築→3.コンセプトの立案→4.商品化に向けたデザインワーク→5.CG とモックアップによる検証→6.試作品モデルによる検証→7.実生活での利用体験→8.製品化)。この結果、ゼロから生活者と一緒に製品開発を行い発売に至った。これは、日本版リビングラボとしての独自のモデルであり、海外のリビングラボからも注目されている。〈図3〉

また、今年 2019 年度は「ワクワクしながら働く環境」を「みんなで創るコミュニティコモンズ」をテーマに掲げ、鎌倉での働き方を検討するワークショップを開催している。鎌倉市に事業拠点を置いている東京映画社もイトーキと共に企業として共創に参加。さらに、この活動に興味を持った企業数社が連携し、新しい働く環境づくりを共創する次の活動もスタートしている。

参考図表



〈図1〉日本版リビングラボの目指すモデル

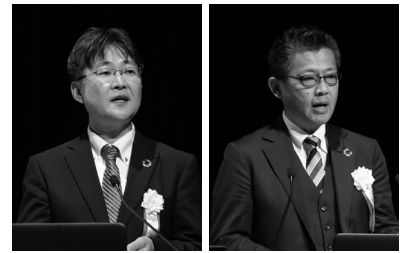


〈図2〉リビングラボ推進体制



〈図3〉商品化されたワークデスク

“笑顔”つなぐ はままつの「ユニバーサル農業」  
～どこにも負けない農福企業連携を誘発し続ける仕組みづくり～



浜松市(静岡県) 京丸園株式会社 株式会社ひなり

発表者：浜松市 農業水産課 北嶋 秀明 氏  
京丸園株式会社 代表取締役 鈴木 厚志 氏

取り組み概要

1. 浜松市におけるユニバーサル農業

浜松市のユニバーサル農業は、福祉分野の「作業分解」という視点を農作業に取り入れ、誰にでもできる形にデザインすることで、従来の農作業を見直すきっかけとなり、結果として作業の効率化や規模拡大につながるなど、農業経営に変革を起こすことを目的としています。

ユニバーサル農業の取組は、農業経営の改善にもつながることが実証されているとともに、農業における職域拡大という福祉の課題の解決、そして、農業を雇用の場とすることによる法定雇用率の達成や地域貢献といった企業の課題の解決も同時に果たすことができる仕組みとなっています。

■浜松市の取組【行政】

浜松市ユニバーサル農業研究会を立ち上げ、農業者、福祉施設、企業だけでなく、大学研究者や農業関係団体、その他の専門家などを構成員として連携を支援するとともに、新たなステークホルダーの発掘や連携支援、スタートアップ支援、情報発信などを行っています。

■京丸園株式会社の取組【農業者】

農作業の作業分解を取り入れ、ユニバーサル農業を持続可能な取組として実践することにより事業モデルを確立しています。

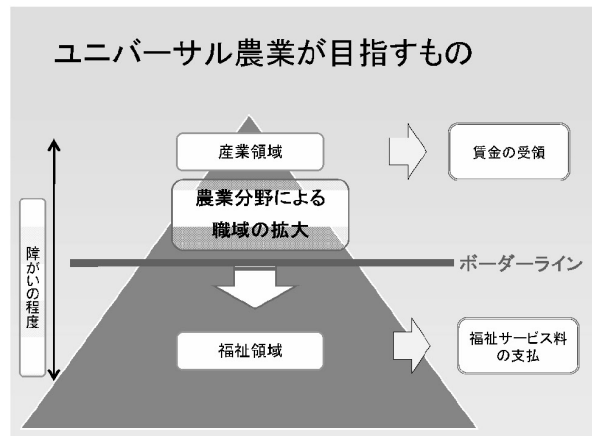
■株式会社ひなりの取組【企業】

通称「ひなりモデル」という、特例子会社による農作業の受託事業を行っています。これにより、特例子会社の障がい者雇用が増大するとともに、農業者の規模拡大や収益増を実現させています。

2. 「ユニバーサル農業」が目指す未来

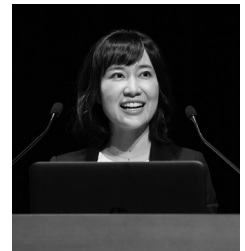
農業には様々な作業があり、作業分解することにより障がい者や高齢者の能力を生かせる作業を生み出すことができます。また、障がい者等が一人でも多く産業界に身をおけば、その分、福祉に係る費用を削減することができます。福祉サービスの受益者である障がい者が、労働の提供者となり、加えて高齢者や外国人など、多様な人が農業に雇用されることで、地域農業の活性化と発展が見込まれます。多様な担い手が参画する農業を通じた豊かで活力ある社会の実現こそ「ユニバーサル農業」が目指す未来です。

参考図表



## 地域人財育成賞

## 「SDGs 岡山モデル」を世界に発信 ～地方のヒトとモノとコトにプラチナ色の光をあてよう～



### 株式会社ストライプインターナショナル

発表者：SDGs 推進室 室長 二宮 朋子 氏

#### 取り組み概要

#### 「SDGs 岡山モデル」を世界に発信～地方のヒトとモノとコトにプラチナ色の光をあてよう～

（背景）アパレル企業、株式会社ストライプインターナショナルは、「ストライププロジェクト」として、創業地・岡山市（本社）でヒトとモノとコトを掘り起こす継続的に取り組んでいます。アパレルという生活文化から芸術・スポーツ・教育まで「衣食住」を通じた人づくりと地域活性化がテーマです。

（概要）持続可能な開発目標（SDGs）を徹底的に活用して経済・社会・環境の両立モデルを世界に提示する、革新的な次世代人材育成の「SiEED（シード）」プログラムに結実させました。SDGs 経営を推進する同社はジャパン SDGs アワード受賞大学の岡山大学と組み、SDGs 未来都市の岡山市において、SDGs のシナジーを生かし、創業者・石川康晴のイニシアチブのもと行ってきた「マルシェ」などの活動を集大成し岡山のヒトとモノとコトに光をあてプラチナ社会の岡山 SDGs モデルを世界に発信します。

#### （取り組みの社会性・新規性・実効性・協働・展開性・持続可能性）

- ① 社会性【地方を取り残さない、地方から革新をおこす人材の育成】岡山大学と連携した教育プログラム「SiEED（シード）」は、地産地消のストライプ「マルシェ」の経験なども活かし、アントレプレナーシップ（起業家精神）で改革者を生み出す教育と人づくり革命に役立つ。
- ② 創造性・革新性【SiEED＝SDGs アワード受賞大学×SDGs 未来都市岡山×SDGs 企業ストライプインターナショナル】ストライプインターナショナルは、創業以来連続でイノベティブな成長を達成、この経験とノウハウをカリキュラムや運営に生かす。
- ③ 実効性【SiEED は岡山大学の企画力と SDGs 企業ストライプインターナショナルのコラボによる企画及び運営】SDGs 目標 4「質の高い教育」のモデル例へ。
- ④ 協働の実現性【SiEED は、国内外の起業家や企業内のイノベーター、研究者、エンジニアなどを講師として招聘】前エバーノートジャパン会長の外村仁氏、投資ファンド 500Startups と神戸市によるアクセラレータープログラム「500K0BE」のリエゾンオフィサー・山下哲也氏などと協働。
- ⑤ 持続可能性【SiEED は次の世代にバトンを渡す持続的な地方活性化のプロジェクト】
- ⑥ 展開可能性【SDGs 連携が水平方向展開】未来都市が今回の新規指定で合計 60 となり、大学でも SDGs を実装。今後「SDGs 企業」×「SDGs 大学」×「SDGs 未来都市」で同様の設計を整えることは可能】SDGs 目標 17「パートナーシップ」をキーに目標 4「質の高い教育」を念頭に展開し普遍性のあるモデル。

#### 参考図表



## 全国初のPFI刑務所「美祢社会復帰促進センター」との「共生のまちづくり」を通じた地方創生



美祢市 (山口県)

発表者：美祢市長 西岡 晃 氏

### 取り組み概要

全国初のPFI刑務所「美祢社会復帰促進センター」(以下「復帰センター」という。)を、地方創生に資する重要な資源の一つと位置付け、復帰センターを活用した「共生のまちづくり」を進めている。

#### 【主な取組】

##### (1) 市民の「共生」への意識醸成に向けた取組

- ・ 地域住民を交えた「美祢市社会復帰促進センター地域共生のまちづくり推進協議会」の開催
- ・ 矯正展「豊田前 愛のまごころ矯正展」の共催
- ・ 「共生のまちづくり」に貢献した者に対する表彰

##### (2) 国・民・地方の連携による再犯防止事業を通じた地方創生事業(H30～)

復帰センターで新たな職業訓練科目「ネット販売実務科」を開設し、受講生がeコマースに関する基礎的な知識を習得するほか、成果物として、美祢市の地場産品等を販売するヤフーショッピングのストアサイトを受刑者が制作し、その後のサイトの公開を含む運営を美祢市内の「道の駅おふく」が実施。

国、美祢市、株式会社小学館集英社プロダクション及びヤフー株式会社が連携した全国初の取組。

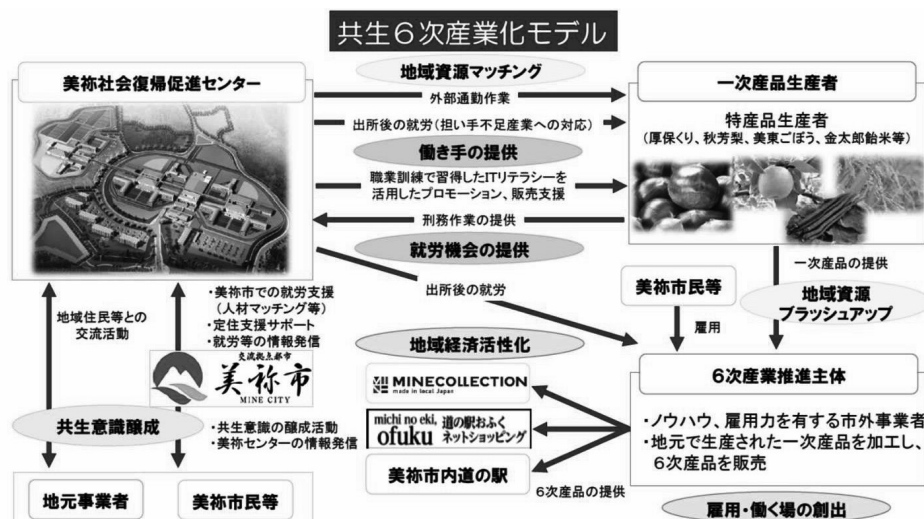
##### (3) 「美祢社会復帰促進センター等を活用した地方創生推進事業構想」の策定

「共生のまちづくり」を一層推進し、美祢市民、市内の企業及び復帰センターの受刑者が「共生」の考え方にに基づき、共に美祢市で生活を送り、既存の地域資源を活用することで、新たな雇用を創出し、市の持続的な発展に寄与することを目的に策定(H31.3)。

同構想の基本方針「人材再生」、「共生意識醸成」、「地域資源の連携」、「地域経済活性化」に基づき、平成31年(令和元年)度以降、主に六次産業化の推進を軸に施策を順次実施。(2 参考図表 参照)

令和元年度は、地域資源を活用した刑務作業や外部通動作業の拡大等を予定。

### 参考図表





## コミュニティアピール賞

スマート自治体時代の地域活性化戦略  
～デジタル×人で創る新たな社会～

都城市 (宮崎県)

発表者：都城市長 池田 宜永 氏

## 取り組み概要

当市では、イベント情報が、様々なサイトで個別に発信されていたため、イベント情報へ辿り着くことが困難であった。さらに、地域や個人が主体となるイベントについては、主催者が自らのHP等で情報発信しても、閲覧者が少なく集客に繋がらないとの課題もあった。

また、子育て世代や移住者が、市の魅力に気付く機会が少なく、余暇を市外で過ごす傾向も見られた。

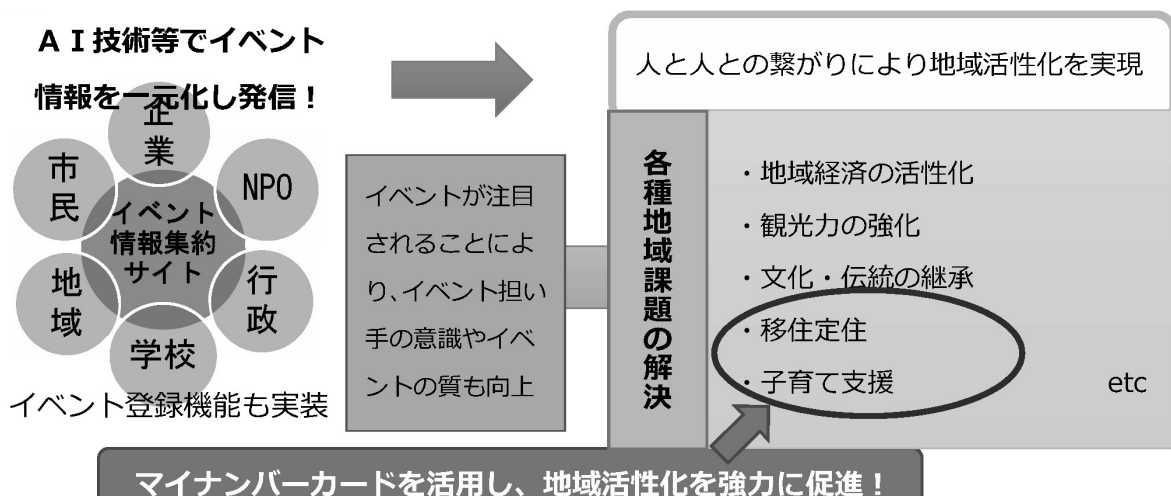
そこで、民間企業とのパートナーシップにより、市・企業・NPO・地域団体・学校・個人等のHPやフェイスブック等のSNS等に掲載されている都城市のイベント情報を、AIを活用した自動収集プログラムで一元化して、HP（都城市イベント情報集約サイト）で発信する取り組みを開始した。日付検索やカテゴリ検索、ランキング等により都城市で開催されるイベントを知ってもらうことで、人との繋がりを生み出し、地域活性化や観光力の強化を図っている。また、イベント担い手の意識やイベントの質の向上も実感しており、利用者の9割がサイトに満足しているとのアンケート結果がある。

なお、HP等を持たない小規模な地域団体等のために、直接イベント情報を登録する機能も実装し、地域を含めて、市全体を巻き込み、本取組を推進している。

上記で生じた好循環をさらに加速させるために、市区別日本一の交付率であるマイナンバーカードを活用した電子母子手帳で、当該イベント情報や子連れ世代を応援する飲食店等の外出支援情報を発信しているほか、移住者に対しても本サイトを紹介するとともに、地域通貨として活用できる地域ポイントをマイナンバーカードに付与し、道の駅や温泉施設等で地域の魅力を体験する機会を創出している。

本取組については、公共交通等の他産業へも好影響を与えており、引き続き、「地域を愛し、地域と共に生きる」等の行政の想いを込めた「都城市ならではのデジタル技術の活用」を推進していきたい。

## 参考図表



移住定住→地域通貨として活用できるポイントの付与で、地域の魅力を体験してもらい定住促進  
子育て支援→電子母子手帳で、子連れ世代を応援する飲食店等の外出支援情報を発信

新しい時代のまちづくり賞

人と人が絆でつながる「スマートシティさいたまモデル」  
～公民+学連携のまちづくり～

さいたま市(埼玉県) 株式会社中央住宅  
株式会社高砂建設 株式会社アキュラホーム

発表者: さいたま市長 清水 勇人 氏



取り組み概要

さいたま市の東南部、都心25km圏の郊外に位置する「美園地区」は、2001年3月開業の埼玉高速鉄道線「浦和美園駅」を中心に、市の副都心の一つとして大規模な新市街地形成の進むエリアである。2001年10月開場の埼玉スタジアム2002公園(以下、「埼玉スタ」という)も囲みながら、総面積約320ha・計画人口約32,000人の土地区画整理事業(区域愛称:みそのウイングシティ)が2000年度に施行開始。2006年4月の先行街区の街開き以降、住宅・店舗等の建設や学校・公園等の整備も進み、子育て世代を中心に人口が急増している。本地区をフィールドに、綾瀬川・見沼田んぼ・埼玉スタ等の地域資源も活かしながら、市の目指すスマートシティのモデル地区としてIoT・AI等の先進技術を積極導入し、心豊かなライフスタイルとコミュニティを体現した、脱炭素・循環型地域社会を目指した新たなまちづくりが進んでいる。

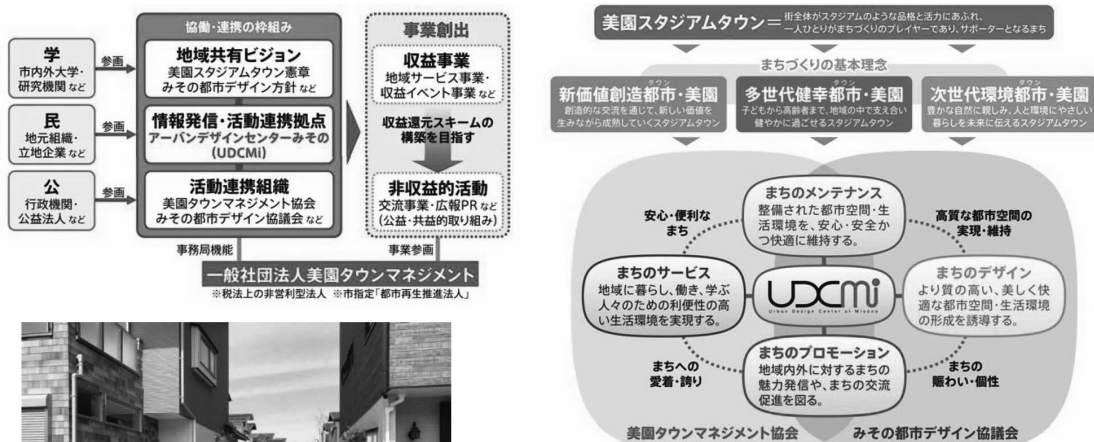
2015年10月に開設したまちづくり情報発信・活動連携拠点「アーバンデザインセンターみその(略称:UDCMi)」を起点に、「公民+学連携」の理念のもと、民間企業・大学・自治会連合会・区画整理事業関係者・行政を会員とする任意組織の運営を通じ、ハード・ソフトに亘り地域課題の解決に取り組んでいる。

埼玉スタを有する地区として世界に誇れる“スタジアムタウン”を実現すべく2020年を短期目標に、ウォーカービリティ向上を軸とした快適な市街地環境形成に向け、街並みデザイン誘導体制の構築や河川空間の高質整備・管理運営等を進める一方で、再生可能エネルギーの地産地消に向けたデジタルグリッド技術導入など、先進技術を取り入れた環境負荷低減にも取り組んでいる。

また、地域のQOL向上のため、ICTを活用した子育て支援・マルチモビリティシェアリング・健康増進プログラム等の地域サービス事業を展開。各サービス運営を通じて得られるデータ等をエリア価値向上に向け有効活用すべく、共通プラットフォームさいたま版の開発・運用実証も進めている。さらには、地域イベント事業や交流ワークショップ等も開催し、新市街地特有の課題であるシビックプライド醸成やコミュニティ形成促進にも取り組んでいる。

各事業の成熟化・相互連携促進を図る中で、2016年7月に都市再生推進法人として指定を受け、事業収益をまちづくりに還元・再投資するサイクルの確立を目指している。

参考図表



◀レジリエンス向上・コミュニティ形成も加味した低炭素型住宅街区(中央住宅、高砂建設、アキュラホーム)

## 「プラチナ大賞受賞団体 取り組みのその後」ご報告

### 【第1回大賞・優秀賞】上勝町(徳島県)

#### 持続可能なまちづくり

#### ゼロ・ウェイスタウン上勝の取り組み

上勝町長 花本 靖 氏  
特定非営利活動法人ゼロ・ウェイストアカデミー 坂野 晶 氏



上勝町は徳島県のほぼ中央部、人口が1,530人、高齢化率は52%、町の90%が山林という自治体です。本日はこの山間の小さな町の取り組みを紹介します。

第1回プラチナ大賞で優秀賞を受賞した応募内容は、株式会社LIXILと共同で取り組んだ「エコ・サンテーション・システム」についてです。これは浄化槽の汚泥や排水をごみと考え、これをリサイクルすることによる、汲み取りを要しないトイレの仕組み作りを行ったものです。当時、実証実験を実施したトイレは現在も稼働しています。

ゼロ・ウェイストとは、直訳すると「浪費、無駄、廃棄物をゼロにする」という意味です。上勝町は、諸事情によりごみの焼却ができなくなり、焼却・埋立に頼らないごみ処理を進めていた時に「ゼロ・ウェイスト」という概念に出会い、日本で初めて「ゼロ・ウェイスト宣言」を行いました。

宣言の目的は、未来の子どもたちに、きれいな空気やおいしい水、豊かな大地を継承することです。これを実現するため、次の3点をテーマとしています。

1点目は、地球を汚さない人づくり。2点目は、ごみの再利用、再資源化を進め、2020年までに焼却、埋立処分をなくす最善の努力。3点目は、地球環境を良くするために世界中に多くの仲間をつくるというものです。

具体的な取り組みとして、まず生ごみの堆肥化に取り組みました。一般家庭には、生ごみ処理機の購入に対して助成を行い、飲食店などの事業所から出る生ごみは、大型の処理機にて処理できるようにしています。

生ごみ以外は、上勝町の中央部にある「ごみステーション」に住民が自ら持ってくる仕組みになっています。ここでは品目ごとにコンテナが並べあり、分別した物がどこに行き、何にリサイクルされ、いくら費用がかかるのか、あるいは、いくらで売れるのかが表示されています。

高齢者等、自らごみ出しが困難な方については、支援策として町が回収の補助を行っています。

また、リサイクルと同時にリユースにも取り組んでいます。くるくるショップは家庭で不要になった物などを町民が持ち込み、誰でも無料で持ち帰ることができるリユースショップです。年間約7トン～8トンの利用があります。

これらの取り組みにより、ごみの焼却埋立処理は年々減量し、資源回収が進んでいます。

上勝町の取り組みは、一つの地域でここまでできると

いうのを証明した一つの好例です。日本の一般廃棄物のリサイクル率は20%ですが、上勝町では80%を超えています。残りの20%は一つの地域の取り組みだけでは難しく、多くの地域に取り組みを広げ、リサイクルが難しい素材、分別ができない設計になっている製品を企業の協力で変えていく必要があります。

今年の1月、世界経済フォーラムの年次総会、通称ダボス会議の共同議長を務めた際に、サーキュラー・エコノミーへの社会転換を訴えてきました。こうした取り組みを日本でいかに加速できるかが重要です。

地球が再生産可能な資源の量は限られています。1年間で再生産できる資源を私たちが使い切った日をオーバーシュート・デーと言います。昔は1月でしたが、今年は過去一番早い7月29日、日本では5月でした。私たちは未来に残すべき資源の消費をしているということになります。

このような状況もあり、サーキュラー・エコノミーという考え方が重要になります。この考え方は、資源を取り、物を作り、使って捨てるという一方通行のモデルを、使い捨てをしないというモデルに切り替える、いわゆる循環型の経済をつくるという考え方です。ここでは、地域と企業の連携が鍵になります。企業が新しい商品、素材を開発するだけではサーキュラー・エコノミーは達成できません。一度使った資源をどのように回収するか、あるいは使い続けられるかというインフラを構築する必要があります。そのようなモデルを、新しい調達の仕方を模索している地域で試していくことが必要になります。上勝町も色々な所とそのようなトライアルをしている状況です。

地域でできる取り組みとして、ゼロ・ウェイスト認証制度を始めました。これは、ごみの削減やサステナブルな運営に取り組むお店を応援していくものです。お店の考え方や取り組みを少しずつ変えつつ同時に、お店と一緒に、お客に対してもフィロソフィーを届けていくことを目的としています。

誰も取り残されない社会をつくるということは、誰もが責任を持って取り組まなくてはいけないということです。

循環型の社会という観点から、地域と世界が直接つながる今、ゼロ・ウェイストの仲間づくりを広げていくタイミングだと思います。是非、皆様と一緒に横展開をしていきたいと思っています。

## | プラチナ奨励賞 受賞団体の取り組み

取手市 (茨城県)

### 文化芸術に触れ、健康で豊かなまち



取手市長 藤井 信吾 氏

取手市は、茨城県の県南にあり、東京都心まで約40kmという距離にあるため、昭和40年代から50年代の後半にかけて、ベッドタウンとして大きく発展した自治体です。最近は、高齢化・生産年齢人口の減少という財政の硬直化を招く課題があります。

そうした状況の中、アイデンティティクライシスに陥らないよう、市の未来像を明確に打ち出していく必要があります。取手市は「誰もが生涯を通じて心も物も豊かで健康で安心して過ごせる社会」を目指し、2つの大きな軸を立てました。1つ目は、老若男女全員が健康で幸せに暮らせる「スマートウェルネスとりで」です。2つ目は、アートを通して心も物も豊かで文化や芸術を発信・体験できる都市です。

1つ目の「スマートウェルネスとりで」の推進につきましては、健康づくりとして「元気な体をつくる運動」「バランスのとれた食生活」の推進。幸せづくりとして「生きがいづくり」「地域・家族の絆づくり」を掲げて取り組んでいます。

平成27年10月、取手駅前に健康・医療・福祉・環境・子育ての機能を備えた取手ウェルネスプラザをオープンしました。ここは、市民の健康づくりや中心市街地の活性化施設として利用され、累計来館者数が70万人を超えました。

これらの成果として高齢化率が34.4%という全国平均を約6%上回る状態でありながら、要介護認定率は全国平均の18.5%を下回る12.9%となっています。

2つ目のアートによるまちづくりの推進につきましては、まず、東京藝術大学と連携し、実施している事業があります。小中学生には美術・音楽分野の指導を受けている他、ふれあいコンサート・取手ジャズデイズ・クレイアニメの制作などを連

携して実施しています。

また、東京藝術大学の卒業制作展で優れた2作品に対し、取手市長賞を授与しています。受賞作品は市に寄贈され、公共施設等に展示し市民に親しまれています。

その他、市民、東京藝術大学、取手市で構成する取手アートプロジェクトによる連携事業もありますし、実行委員会組織を立ち上げ、市内18か所に壁画を描くといった取り組みも行っています。この壁画は取手市にゆかりのあるモチーフを市在住のアーティストに描いていただいています。壁画には、作品の大きさが与えるインパクトだけでなく、落書きや張り紙を防ぐ大きな役割があります。

令和元年12月、取手駅の駅ビルであるボックスヒル取手4階に、取手市、東京藝術大学、東日本旅客鉄道株式会社、株式会社アトレの4者の連携により実現した「たいけん美じゅつ場」(VIVA)をオープンします。この施設では、アートギャラリーとしての機能の他、東京藝術大学の協力のもと様々なアートの体験型教室、アートと音楽を融合した作品の発信など、見える化や体験を通じてアートというカテゴリーを超え市民の活動を支えていく予定です。

最後になりますが、改めて取手市が目指すプラチナ社会像についてです。「スマートウェルネスとりで」の推進という健康づくりと、アートを通じた心も物も豊かなまちの推進という2つの柱を中心に、誰もが生涯を通じて心も物も豊かで、健康で安心して過ごせる社会をつくっていきたいと考えています。

本日は大変、素晴らしい機会をいただきまして感謝申し上げます。ありがとうございました。

戸田市 (埼玉県)

Toda City

ープラチナ社会に向けた戸田市の「教育」による人づくりー



戸田市長 菅原 文仁 氏

本日は戸田市における「教育」による人づくりについて紹介します。

令和の時代になり、時代の変化は益々加速度を増しています。この変化の激しい時代、これまでの価値観とは異なる教育、優れた人財育成が不可欠であると考えています。そこで、戸田市では日本一の教育のまちを目指し「教育」による人づくりを積極的に進めています。

人財育成に関しては、プラチナ構想ネットワークの活動にも積極的に参加しています。市民や職員を対象にした人財育成では、プラチナ構想スクール@戸田を開催し、小宮山会長にもご講演をいただきました。また、プラチナ構想スクールや保健師プロジェクトなどにも職員を派遣し、先進的な取り組みを学ぶ機会をつくり「人財育成」と「ネットワーク形成」を後押ししてきました。

さらに、幅広い知識の吸収や様々な団体とのつながりをつくることを期待し、これまで2名の職員をプラチナ構想ネットワークに派遣しています。

また、この他にもプラチナ未来人財育成塾には、毎年市内の中学生を派遣しています。著名な先生方から学ぶことができる大変貴重な経験になります。また、全国の仲間たちとの議論を生かして、未来のリーダーへと成長することを期待しています。このように、様々な学びの機会を活用し、未来に向けた人財育成に取り組んでいます。

続いて、戸田市の基本方針の一つ「未来への投資で元気をつくる」から、戸田市の特徴的な教育の取り組みを紹介します。

戸田市では産官学と連携した独自の教育カリキュラム「戸田市 PEER カリキュラム」に取り組んでいます。PEERには、仲間や見つめるという意味があり、小中9年間の学びと育ちの連続性、継続性を重視して、お互いを仲間として見つめ合うことが肝要という思いを込めています。PEERは「プログラミング教育」「英語教育」「経済教育」「リーディングスキル」の頭

文字を取って名付けたものです。

まず、プログラミング教育では、ベネッセやインテル、Google、Microsoftなどの企業と連携してプログラミング的思考と呼ばれる論理的に考える力を育てています。また、ICT環境の整備を重要視し、タブレットパソコンを小学校全12校に2,000台、中学校全6校に1,000台導入して先進的な技術を活用した学びを推進しています。Wi-Fi環境については、体育館に至るまで整備し、どこでもタブレットパソコンを使える状況をつくっています。

次に英語教育では、全小中学校にALTを常駐させ、小学1年生から中学3年生まで小中一貫の英語教育を推進しています。また、英語以外の教科指導の中に英語を活用するイマージョン教育の研究も進めています。それらの成果もあり、昨年は中学3年生の英検3級以上の取得率が58%にまで上昇しました。

続いて経済教育では、一般社団法人CEEジャパンと連携し、考える習慣を身に付け、質の高い選択ができる力を育てています。

最後にリーディングスキルでは、国立情報学研究所の新井紀子教授と連携し、研究を行っています。現在は、教科書が読めていない現状が明らかになったことを受け、リーディングスキルと学力の関係を分析して、それらを効果的に向上させる指導法の開発などにも力を注いでいます。

戸田市では、これからの時代を生き抜くために、どのような力が必要かを常に考え、現状にとどまることなく、さらに先を目指したプラチナ社会の一員となるべく、教育改革に取り組んでいます。

基本方針「未来への投資で元気をつくる」「安心の暮らしを全力でまもる」「人・自然・まちを共感でつなぐ」のもと、人づくり、まもり、つないでいくためにも「人財育成」を最重要視し、教育による人づくりから、プラチナのように光り輝く社会の実現に取り組んでいきます。

## 審査委員長 講評

プラチナ大賞  
審査委員長代理  
増田 寛也



審査委員9名を代表しまして、審査経緯についてご報告を申し上げます。

13件のプレゼンがございました。いずれの内容も大変素晴らしく審査委員一同、認識を共有したところでございます。その上で、総務大臣賞、経済産業大臣賞、いずれも一つずつ、13件の中から選ぶという大変困難な作業でございました。

まず、総務大臣賞には弘前大学、青森県、弘前市の取り組みが大変ふさわしいということで賞を差し上げるという決定をいたしました。2005年から長きにわたって健康データを取りまして、延べ2万人の健康情報をもとに全国平均寿命で最下位という汚名を返上すべく努力をしてこられました。そして、その取り組みが国内大手企業や地域の企業、大学や国の試験研究機関につながっていき、疾患研究、そして新産業の創出につながっているところが高く評価をされたものでございます。

そして、経済産業大臣賞でございますが、株式会社リクルートと有田市のプロジェクトでございます。「AGRI-LINK IN ARIDA」という仕

組みは、農地の価値を可視化して、新規就農者、受け入れ農家、農地提供者の3者のニーズをデータベース化して、最適なマッチングを実現している。産業全体では事業承継の問題が喫緊の課題となつてきておりますが、特に農業の後継者が深刻な状況でございます。それについて一つの大きな明るい希望と解決策を示されたもので、経済産業大臣賞に大変ふさわしく、高く評価すべき取り組みだと審査員の意見が一致したところでございます。

その他、11件もそれぞれが素晴らしい取り組みでございました。その賞の特色を捉えた名前を付けようということで「きらり構想賞」「新しい時代のインフラ賞」「技術革新賞」等々、先程司会の方が読み上げたような形で、それぞれの取り組みの特徴的な点を賞の名前に書かせていただきました。2件の大臣賞をはじめ13件全てが大変素晴らしいものでございますので、どうか自信を持って、これから取り組みをさらに進めていただきたいです。また、こうした取り組みをそれぞれの地域で横展開をするという上では、本日会場においでの皆様方も大いなるヒントを得たのではないかと思います。この13件が皆様につながっていれば我々審査員としても、大変望ましいことだと思っております。ことをご報告させていただきます。

二つの大臣賞を受賞されました団体、そして13団体全ての皆様方に心から敬意と感謝とお祝いを申し上げます。誠にありがとうございます。おめでとうございます。

## 閉会挨拶

プラチナ構想ネットワーク  
幹事長

岩沙 弘道



本日は、お忙しい中、長時間にわたり、第7回プラチナ大賞最終審査発表会・表彰式にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

木村総務大臣政務官、宮本経済産業大臣政務官には、公務ご多忙の中、ご出席いただきましてありがとうございました。また、吉川先生並びに増田先生をはじめとする審査委員の皆様には、候補に挙がった各地のいずれ劣らぬ素晴らしい取り組みを審査するという大変難しいお願いとなりましたが、本当に熱心に、また心を込めてご審議いただきまして、改めて厚く御礼申し上げます。

その結果、栄えある大賞・総務大臣賞を受賞されました弘前大学 中路先生、青森県、弘前市の皆様、並びに大賞・経済産業大臣賞を受賞されました株式会社リクルート、有田市の皆様、誠にありがとうございます。心からお祝い申し上げます。また、優秀賞を受賞された皆様の取り組みも、それぞれ大賞・大臣賞に勝るとも劣らない、素晴らしいものであると感服いたしました。受賞をお慶び申し上げますとともに、皆様の日頃の真摯なご努力に深甚なる敬意を表します。

プラチナ構想ネットワークが目指しているプ

ラチナ社会とは、未来志向のクリエイティブかつイノベーティブな思想、理念であると同時に、現実の社会に変革をもたらす一つの運動論でもあります。運動あるいはムーブメントは、持続し継続していくことが何より大事となり、そのためには広がり非常に大切になります。その意味で今回の受賞者の皆様、並びに上勝町、そしてプラチナ奨励賞を受賞されました取手市、戸田市のプレゼンテーションを拝聴し、テーマ的な、あるいは地域的な、また、参加者の幅と厚みなど、さまざまな広がりを実感しました。特に地方創生につながる官民学連携の広がりを示す応募が数多く寄せられまして、運動としての確かな手応えに、大いに意を強くいたしましたところです。

7回目を迎え、年年歳歳、益々充実の度を加えていく、このプラチナ大賞のさらなる広がり、並びに今回の受賞者の皆様をはじめとする日本全国の先進的な取り組みの今後に、大いなるご期待を申し上げる次第です。

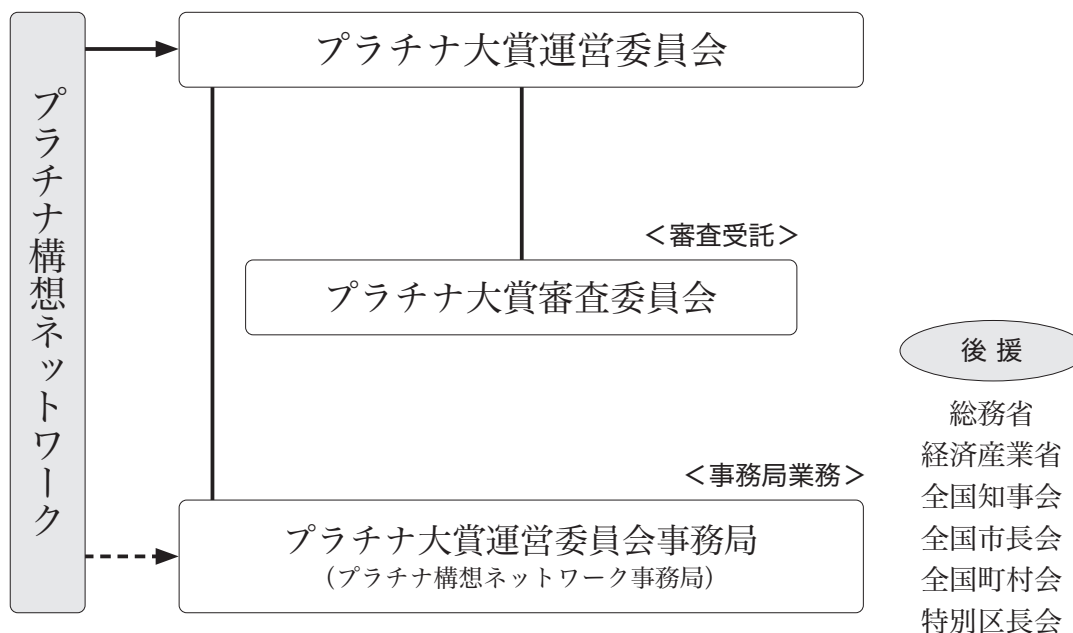
プラチナ構想ネットワークでは、このような優れた取り組みを引き続き、会員ネットワークを通じて積極的に情報発信し、水平展開をしていくことでプラチナ社会実現に向けた、各地の意欲的な素晴らしいチャレンジをサポートしてまいります。

最後になりますが、これまでプラチナ構想ネットワークをご支援くださった会員の皆様に深く感謝を申し上げますとともに、今後もさらなるご理解とご協力をお願いいたしまして、私からの閉会の挨拶とさせていただきます。本日は長時間、誠にありがとうございました。

# 資料編



## 運営委員会組織と事務局運営体制



## 第7回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 参加者数

	参加者数
会員・発表団体関係者・その他一般	280
審査委員等主催者側関係者	12
メディア関係者	18
来賓	2
事務局関係者	12
イベントスタッフ	19
合計	343



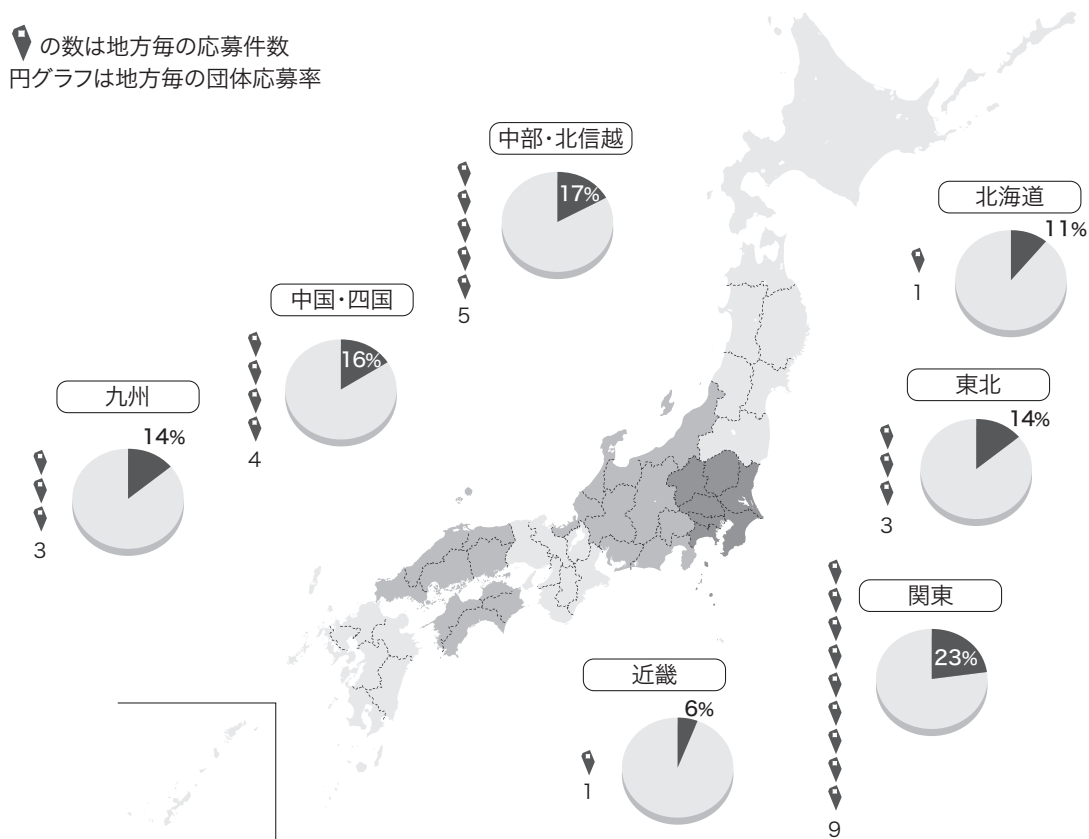
## 応募団体の全体概要

### 【団体属性別】

		都道府県		市区町村		法人		ベンチャー企業		特別		合計	
応募団体数	会員団体数	8	28	18	135	12	81	6	22	3	68	47	334
団体応募率		29%		13%		15%		27%		4%		14%	

(海外会員を除く)

📍の数は地方毎の応募件数  
円グラフは地方毎の団体応募率



### 【地方別】

		北海道		東北		関東		中部・北信越		近畿	
応募団体数	会員団体数	1	9	3	21	9	39	5	30	1	18
団体応募率		11%		14%		23%		17%		6%	

		中国・四国		九州		法人		ベンチャー企業		特別		合計	
応募団体数	会員団体数	4	25	3	21	12	81	6	22	3	68	47	334
団体応募率		16%		14%		15%		27%		4%		14%	

※会員団体数は2019年7月時点

## 主なメディアの掲載一覧

### テレビ

フジテレビ系ニュース (2019年11月5日放映)

日本テレビ系ニュース (2019年11月6日放映)

### 新聞

日刊工業新聞 (2019年11月6日)



**「プラチナ大賞」表彰  
総務大臣賞に弘前大など**

プラチナ構想ネット・3546)は5日、  
ワーク(事務局)東京「第7回プラチナ大  
都代田区、小宮山宏賞」の大賞・総務大臣  
会長、03・68858賞として、弘前大学の  
中路重之特任教  
授、青森県、弘  
前市のグループ  
を表彰した(写  
真)。ビッグテ  
ィタ(大黒ア  
タ)で健康増進  
活動や予防法の  
開発を進めたこ  
とを評価した。

また大賞・経済産業大  
臣賞には、リクルー  
ト和歌山県有田市によ  
る就農スキームの活動  
を選んだ。

プラチナ大賞は少子  
高齢化など社会課題の  
解決につながる活動を  
表彰する。今回は計13  
件を表彰した。増田寛  
也審査委員長代理は  
「いずれも素晴らしいか  
つだが、弘前大は疾患  
研究や新産業創出につ  
なげている。また有田  
市では(就農で)最適  
なマッチングを行って  
いる」と評価した。

静岡新聞 (2019年11月6日朝刊)



**ユニバーサル農業 優秀賞**

プラチナ大賞  
都内で審査会  
浜松市や企業、人材活用

地域課題の解決に取  
り組む自治体や企業な  
どをたたえる「第7回」  
最終審査では、全国  
プラチナ大賞」の最終  
審査会が5日、都内で  
開かれ、障害者や高齢  
者ら多様な人材が活躍  
できる農業として、浜  
松市や地元企業などが  
進める「ユニバーサル  
農業」が優秀賞に選ば  
れた。同市の入賞は2  
年ぶり3回目。

「たごなを」を紹介し  
て「変わるのは障害者  
はなく、農業だ」とし  
て売り上げも伸びてい  
ると強調した。

伊藤浩之クノソリュ  
ーションズの特定子会  
社で、障害者を雇用し  
て農作業を請け負う  
(ひなり) (東京都)  
の浜松オフィスなどと  
も連携しているとし、  
「福祉、農業、企業の  
三方良しの関係が築け  
ている」と述べた。

大賞は弘前大・青森  
県・弘前市とリクルー  
ト・和歌山県有田市の  
2組が受賞した。自治  
体首長や企業経営者ら  
でつくるプラチナ構想  
ネットワークなどが主  
催した。

(東京支社・八木敏介)

優秀賞のトロフィーを受ける京丸園の鈴木厚志社長  
(中央)＝5日午後、都内

# 弘大・県・弘前市 プラチナ最高賞

東京で選考会 「短命県返上」評価

46	214	31
47	276	4
47	460	7
47	731	4
47	1053	2
47	1906	3
47	2894	1
47	5623	2
46	13580	3



方策の概要について説明する中路特任教授—東京・内幸町

人口減や少子高齢化など、地域課題の解決へ向けた画期的な方策を審査・表彰する「プラチナ大賞」の最終審査発表会が5日、東京・内幸町で開かれた。最終審査に残った13件の概要発表と審査が行われ、弘前大学と県、弘前市が共同で行った「健康ビッグデータで短命県返上と地域経済活性化の同時実現を目指す産学官民一体型青森健康イノベーション創出プロジェクト」が、最高賞の大賞・総務大臣賞を獲得した。

プラチナ大賞は全国の企業や自治体でつくるプラチナ構想ネットワークと同大賞運営委員会が主催し、今年が7回目。全国の47団体から50件の応募があり、1次審査で13件に絞られた。

弘大と県、市は、弘大C OI（センター・オブ・イノベーション）が2005

年から弘前市岩木地区の住民を対象に行っている大規模健診で得た3千項目に及ぶビッグデータを活用。産学官民が連携して疾患の革新的予防法開発、社会展開などに取り組んでいる。

概要を発表した弘前大学

院特任教授・COI拠点長の中路重之氏は「参加する全ての関係者がウィン（勝者）となることが目標。われわれがハブ（拠点）となつて継続可能な研究を進めたい」と意欲を語った。

(若松清巳)

## 琴浦「熱中小」活性化策発表

プラチナ大賞 最終審査会



北海道更別村  
長野県高森町  
鳥取県琴浦町  
高知県越知町  
宮崎県小林市

審査会で取り組みを発表する堀田代表理事。5日、東京都千代田区のイノホール

地域活性化策などを関係者が発表した。

一次審査で絞り込まれた13事例を審査。このうち風景印の活性化策は、各地の熱中小学校を運営する熱中学園の堀田一英代表理事が発表した。

堀田代表理事は琴浦町にある以西郵便局で町内の船上山や後醍醐天皇の姿などをデザインした風景印の使用を始めたことなどを紹介。別の地域では風景印にQRコードを付加してスマートフォンで地域情報を提供するツールにしていることを説明し、「他の県にもネットワークを広げ、地域をつなげていきたい」と訴えた。

審査の結果、熱中小学校の取り組みは奨励賞となった。

(中村宏)

### 更別村がプラチナシティ認定 熱中小・郵便風景印の取り組み

2019/11/08 十勝毎日新聞

【更別】熱中小学校を開設する更別村などの全国5自治体と一般社団法人熱中学園が、「第7回プラチナ大賞」の最高賞に次ぐ優秀賞に輝いた。同賞を受賞した自治体は「プラチナシティ」として認定され、更別村は後志管内二セコ町に次いで道内2例目の認定となる。

今年度は全国の自治体や企業50件から応募があり、13件が1次審査を通過。5日に都内で最終審査発表会が開かれ、各団体の代表者がプレゼンした。

更別村などが発表したのは「郵便の風景印をバージョンアップして地域をつなぐ」取り組み。全国の学校横断の取り組みとして、鳥取県琴浦町を皮切りに各地の熱中小と郵便局、自治体が連携して地域の郵便局の「風景印」を考案した。琴浦の生徒が考えた図案は10月から同町以西郵便局で使用が始まっている。

スマート農業を推進する更別では、トラクターを中央に配し、ドローンが飛んでいる様子を表現。全国初の試みとして、村の情報にアクセスできるQRコードを取り入れた図案を提案した。更別郵便局での採用を目指し、日本郵便に働き掛けている。

西山猛村長は「プラチナシティにふさわしい村民一人ひとりが輝く村づくりにまい進していきたい」と話している。(澤村真理子)

<プラチナ大賞>

同運営委員会とプラチナ構想ネットワークが主催し、総務省などが後援。未来のあるべき社会像「プラチナ社会」のモデルを示すことを目的に創設された。アイデアあふれる方策で地域課題を解決する取り組みをたたえている。

## 日本経済新聞 電子版 (2019年11月12日)

## 目 弘前大COIの短命県返上活動、プラチナ大賞受賞

2019/11/12 17:58 日本経済新聞電子版

弘前大学COI（革新的イノベーション創出プログラム）研究推進機構は、青森県・弘前市と共同で実施している「健康ビッグデータで短命県返上と地域経済活性化の同時実現をめざす産学官民一体型青森健康イノベーションプロジェクト」が第7回プラチナ大賞を受賞したと発表した。

プラチナ大賞は全国の自治体などで構成する「プラチナ構想ネットワーク」などが主催。人口減少、高齢化など日本が直面している問題の解決を目指す取り組みに与えられる。

健康ビッグデータは弘前大COIが中心となって実施している「岩木健康増進プロジェクト」で岩木地区に住む住民の健康診断から得た約3000項目に及ぶデータ。データ相互の関連性を見ることで疾患予防や健康増進などにつなげる。



弘前大医学部の学生らに岩木健康増進プロジェクトの大規模住民健康診の現場で説明する、プロジェクトリーダーの中路重之特任教授

## 日本経済新聞 地方経済面・東北 (2019年11月13日)

「短命県返上」でプラチナ大賞

弘前大学COI（革新的イノベーション創出プログラム）研究推進機構は、青森県・弘前市と共同で実施している「健康ビッグデータで短命県返上と地域経済活性化の同時実現をめざす産学官民一体型青森健康イノベーションプロジェクト」が第7回プラチナ大賞を受賞したと発表した。

プラチナ大賞は全国の自治体などで構成する「プラチナ構想ネットワーク」などが主催。人口減少、高齢化など日本が直面している問題の解決を目指す取り組みに与えられる。

健康ビッグデータは弘前大COIが中心となって実施している「岩木健康増進プロジェクト」で岩木地区に住む住民の健康診断から得た約3000項目に及ぶデータ。データ相互の関連性を見ることで疾患予防や健康増進などにつなげる。

## 日経産業新聞 (2019年11月22日)

## 弘前大COIがプラチナ大賞

【青森】弘前大学COI（革新的イノベーション創出プログラム）研究推進機構が、青森県・弘前市と共同で実施している「健康ビッグデータで短命県返上と地域経済活性化の同時実現をめざす産学官民一体型青森健康イノベーションプロジェクト」は第7回プラチナ大賞を受賞した。

プラチナ大賞は全国の自治体などで構成する「プラチナ構想ネットワーク」などが主催。人口減少、高齢化など日本が直面している問題の解決を目指す取り組みに与えられる。健康ビッグデータは弘前大COIが中心となって実施している「岩木健康増進プロジェクト」で岩木地区に住む住民の健康診断から得た約3000項目に及ぶデータ。データ相互の関連性を見ることで疾患予防や健康増進などにつなげる。

## 高知新聞 (2019年11月22日)

## 目 プラチナ大賞 越知風景スタンプ 優秀賞 「熱中塾」で作成

2019/11/22 高知新聞朝刊

【佐川】地域課題の解決を目的としたアイデア豊かな取り組みを表彰する「プラチナ大賞」の優秀賞を、一般社団法人「熱中学園」と高岡郡越知町など5市町村が連名で受賞した。地域をイメージした風景スタンプを作成する企画で獲得した。

プラチナ大賞は、全国の首長や経営者らでつくる「プラチナ構想ネットワーク」などが主催。今年は50団体から応募があり、5日に大賞2件と優秀賞11件が発表された。

熱中学園は、さまざまな分野で活躍する講師を招き、人材育成や地域づくりのヒントを学ぶ「熱中中学校」の運営を支援する組織。越知町では昨秋から「越知ぜよ！熱中塾」が行われている。

受賞企画は、郵便物に押す風景スタンプの図案に自治体HPなどにつながるQRコードを盛り込み、地域の魅力を内外に発信するもの。

越知町では、7月の授業で生徒32人がデザインに挑戦。67点の中から投票で、横倉山をのぞむ仁淀川でアユが元氣よく跳ねる図案＝写真＝が選ばれた。スタンプは近く、越知郵便局に置かれるという。

同塾事務局の大島愛さん（29）は「県外の人に送る年賀状などに押してもらい、町に興味を持ってもらえたら」と話していた。（森田千尋）

\* 熱中塾3期生募集

「越知ぜよ！熱中塾」は23日から始まる第3期の塾生を募集している。

授業料は12コマ1万2千円。23日までに特設サイトで申し込む。問い合わせは町企画課（0889・26・1164）へ。

---

## 第7回プラチナ大賞 報告書

---

2020年1月31日 発行

編著 プラチナ大賞運営委員会事務局  
(プラチナ構想ネットワーク事務局)

---





プラチナ  
構想ネットワーク

編集・発行 プラチナ大賞運営委員会事務局(プラチナ構想ネットワーク事務局)  
〒100-8141 東京都千代田区永田町 2-10-3 TEL. 03-6858-3546 FAX. 03-5204-9563